

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和5年7月31日

(前回公表年月日:令和4年10月14日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																															
国際ペットワールド専門学校	平成12年1月7日	校長 田中 和志	〒 950-0911 (住所) 新潟市中央区笹口2-13-4 (電話) 025-240-8321																																															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																															
学校法人国際総合学園	昭和32年10月10日	理事長 池田 祥護	〒 951-8063 (住所) 新潟市中央区古町通2-541 (電話) 025-210-8565																																															
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																																														
文化・教養	文化・教養専門課程	ドッグトレーニング学科	平成22年文部科学省告示第三十号	-																																														
学科の目的	企業その他関係機関との連携の下、ペット、動物関連分野の職業人として必要な実務に関する知識や技能及び実践的かつ専門的な能力を習得し、犬のしつけインストラクターやドッグトレーナーとして、またはその他動物やペット関連分野の職業人として、地域社会、関連産業界、国家、国際社会の発展に寄与する人材を育成する。																																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験																																												
2年	昼間	1760	493	0	1267	0																																												
						時間																																												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																													
30	38	0人	2人	18人	20人																																													
学期制度	■前期:4月1日～9月18日 ■後期:9月19日～3月31日			成績評価	<p>■成績表: 有</p> <p>■成績評価の基準・方法</p> <p>評価の基準: S(100～95)、A(94～80)、B(79～70)、C(69～60)、D(59以下)</p> <p>評価の方法: 期末試験を実施</p>																																													
長期休み	■夏期休業:7月29日～8月20日 ■冬期休業:12月23日～1月8日			卒業・進級条件	<p>卒業要件: 年間同授業時限の90%以上を出席、科目の評価が全て「C」以上、学校指定の検定を二つ以上合格、授業料、その他の納入金を感心、又は、所定の手続きを終える</p> <p>進級要件: 年間同授業時限の90%以上を出席、科目の評価が全て「C」以上、授業料、その他の納入金を感心、又は、所定の手続きを終える</p>																																													
学修支援等	<p>■クラス担任制: 有</p> <p>■個別相談・指導等の対応</p> <p>クラス担任、課長、教務部長、その他教務と連携して、相談対応を行なっている。必要に応じ、カウンセラーを導入している。</p>			課外活動	<p>■課外活動の種類</p> <p>(例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 スポーツサークル、ゲームサークルを週1回実施。学外ボランティアへの参加。オープンキャンパス・運動会・学園祭実行委員等。</p> <p>■サークル活動: 有</p> <p>■国家資格・検定/その他・民間検定等</p> <p>(令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ミニケーン検定初級</td> <td>③</td> <td>15</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>社会人常識マーク検定3級</td> <td>③</td> <td>15</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士2級</td> <td>③</td> <td>14</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>Word検定3級</td> <td>③</td> <td>15</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>Excel検定3級</td> <td>③</td> <td>14</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>マナーハンドラーテスト</td> <td>③</td> <td>14</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ミニケーン検定初級	③	15	14	社会人常識マーク検定3級	③	15	15	愛玩動物飼養管理士2級	③	14	14	Word検定3級	③	15	14	Excel検定3級	③	14	9	マナーハンドラーテスト	③	14	8																
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																															
ミニケーン検定初級	③	15	14																																															
社会人常識マーク検定3級	③	15	15																																															
愛玩動物飼養管理士2級	③	14	14																																															
Word検定3級	③	15	14																																															
Excel検定3級	③	14	9																																															
マナーハンドラーテスト	③	14	8																																															
就職等の状況	<p>■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 動物病院、ペットショップ、ペットサービス企業</p> <p>■就職指導内容 目標事業界の現状やニーズ、内容を説明する。個々の進路選択についてアドバイスを行う。応募書類作成、面接、インターネットについての指導や手配を行う。</p> <p>■卒業者数 14 人 ■就職希望者数 11 人 ■就職者数 11 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 79 %</p> <p>■その他</p> <p>(令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)</p>			主な学修成果(資格・検定等)	<p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。</p> <p>①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> <p>■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等</p>																																													
中途退学の現状	<p>■中途退学者 0 名 令和4年4月1日時点において、在学者42名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者41名(令和5年3月31日卒業者を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等</p> <p>授業に興味がわかない</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 専門のカウンセラーによるカウンセリング、転科、休学等の提案を行う。</p>			■中退率 2 %																																														
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入</p> <p>成績優秀者に対する入学選考料や入学金、授業料の減免制度 家族、知人などの紹介や同時在籍による学費の免除制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>																																																	
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																																	
当該学科のホームページURL	https://www.wan-c.jp/																																																	

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ドッグトレーニング学科 企業連携については開校以来積極的に推進しており、パートナードッグ、パップスフレンズ、PARAを中心に講師の派遣、施設を利用した実習などを行っており、新潟県外より優良家庭犬普及協会、日本聴導犬推進協会より講師を招き、犬のしつけ方について、補助犬について特別研修(講義及び実習)も行っている。またアニマルファンシアーズクラブへは施設へ伺い特別研修を行っている。

教育課程編成においては、獣医師会、しつけ教室、ペットショップ等動物及びペット関連企業から広く意見を徴収し、カリキュラムやシラバスの改善、実習内容の精査、人間力指導の向上等に活用し、教育力の向上を図っている。
その成果として、実践に即した即戦力、人間力が養われる環境にある。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会構成員は企業関係者等と当校教員から成るものとし、教育課程編成委員会は教務部の下に置く。委員は動物・ペット関連業界の動向及び学科専門分野に関する知見を有する有識者及び実務に関する知識、技術、技能についての知見を有する企業の役職員を含むものとする。委員会で出た意見はカリキュラム検討会議で審議されたのち、校長の許可を経て決定する。企業・団体と学校が一体となり、互いの意見を十分に活かし、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置づけている。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
金子 真弓	一般社団法人優良家庭犬普及協会 理事	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
鬼澤 穂次	株式会社BASE Dog Training School	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
倉田 純子	国際ペットワールド専門学校 教務部長	-	-
中野 貴行	国際ペットワールド専門学校	-	-

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (12月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年12月15日 11:00～12:00

第2回 令和5年3月28日 15:00～16:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

トレーニング実習では、1年間を通じて、グループ編成や担当犬が変更することもある。問題点としては、グループ編成が変わることで、人間と犬との構築できない。また、他校と比較した際に、実習を行う学生数に対して犬が少なすぎる。犬の体調が不安定であったりするので、食事・おやつなどプログラム化が必要。

⇒次年度カリキュラム及びシラバスを検討する。また、担当犬の頭数についても飼育室の広さや犬のお世話をする教員数を鑑み検討する。

(別途、以下の資料を提出)

- * 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程
- * 教育課程編成委員会等の規則
- * 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-1
- * 学校又は法人の組織図
- * 教育課程編成委員会等の開催記録

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

常に最新の知識の教授や技術指導が行えるよう、学校と企業が密接に連携した体制を築き、より実践的な職業教育が実現できるよう努める。講義及び実習の両方において、より実践的な専門知識、技術、社会性を身につける、プロとしての職業観を得ることも目的とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本学科と業界・団体等が協定書を締結し、実習前に担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習目標を明確にした上で、実習内容や学生の学修成果の評価方法・評価指標について定める。実習期間中は、学生の実習実施状況や能力習得状況を定期的に把握できるよう相互に情報交換を行う。実習修了時には、目標の達成状況の確認をするとともに、実習講師により学修の成果を評価してもらう。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
ドッグトレーニング実習Ⅲ	担当犬にGCTとマナーハンドラー・テストに必要なトレーニングを実施する。	有限会社パートナードッグ
ドッグスポーツ実習Ⅱ	ドッグスポーツの競技について理解し、ハーダルレースとアジリティについて担当犬とトレーニングを行う。	有限会社パートナードッグ
ドッグスポーツ実習Ⅰ	ドッグスポーツの競技について理解し、ハーダルレースとアジリティについて担当犬とトレーニングを行う。トレーニングは各担当グループで考えながらどのようにトレーニングしていくかを進めていく。	有限会社パートナードッグ
人と動物の関係学	現在、国際的に動物愛護がどのように進んでいるのか？日本の現状は？今後取り組んでいく課題は何なのか？を学ぶ。	一般社団法人アニマルリテラシー総研

(別途、以下の資料を提出)

* 企業等との連携に関する協定書等や講師契約書(本人の同意書及び企業等の承諾書)等

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

全教員は学生指導力の向上のために各自の「教員資質」、「能力」、「専門力」を高めるよう努めなければならない。

校長及び上長は企業等で実施される研修情報を収集すると共に、各教員の経験、スキル、能力を勘案し必要な研修への参加を命ずる。また外部講師を招いた学内研修も計画的に実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名： わんこを育む食の授業 連携企業等： あじな動物病院

期間： 2023年3月31日～6月11日 対象： 稲川

内容 手作りご飯と生食を学ぶ

研修名： 災害ボランティア研修～ケーススタディ編～ 連携企業等： 日本財団ボランティアセンター

期間： 2023年6月21日 対象： 佐山

内容 ペットと一緒に被災したら？今できる備え(豪雨編)

研修名： 犬に関するお悩みのあれこれ 連携企業等： 一般社団法人優良家庭犬普及協会

期間： 2023年7月29日 対象： 中野

内容 犬との生活においてトレーニングなどの行動管理を学ぶ

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名： 関係性が変わり行動が変わる1on1のすすめ 連携企業等： 実践行動学研究所

期間： 2023年7月11日 対象： 倉田、小林、秋元

内容 新しいコミュニケーション手法の導入を学ぶ

研修名： 今までと何が違う、生徒指導の現場から 連携企業等： 新潟県専門学校協会

期間： 2023年7月13日 対象： 倉田、遠藤

内容 各学校の学生指導の事例発表及び意見交換

研修名： アンガーマネジメント研修 連携企業等： 学校法人国際総合学園

期間： 2023年7月26日 対象： 中野、梅本、斎藤

内容 怒りの感情に責任を持ち、どのようにコントロールすればよいかを学ぶ

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ブリードレスキュートなに	連携企業等:	一般社団法人優良家庭犬普及協会
期間:	2023年9月9日	対象:	中野
内容	あらゆる犬たちに手を差し伸べる取り組みに向けて		
研修名:	米国ヘルシースポット バーチャル施設見学	連携企業等:	ライトハウス
期間:	2023年10月23日	対象:	山田、平石、梅本
内容	ロサンゼルスにある美容・トレーニング・グッズ販売のサービスを行っている施設をオンラインで見学し、サービスや運営について学ぶ		
研修名:	米国ペットスペース バーチャル施設見学	連携企業等:	ライトハウス
期間:	2023年10月24日	対象:	斎藤、竹石
内容	ロサンゼルスにある動物愛護施設をオンラインで見学し、サービスや運営について学ぶ		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	実践行動学ファシリテーター養成講座	連携企業等:	実践行動学研究所
期間:	2023/8/22～23、2023/8/29～30	対象:	中山、本間、斎藤、野口
内容	学生へ実践行動学を指導できる公認 ファシリテーターとして動機付けや授業技術の手法を学ぶ		
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

(別途、以下の資料を提出)

- * 研修等に係る諸規程
- * 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績)
- * 研修等の計画(推薦年度における計画)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、専門分野関連企業等及び、卒業生、保護者、近隣住民などから選出した委員で構成する「学校関係者評価委員会」を設置して評価を実施し、評価結果を学校運営全般及び教育活動の改善等に生かす。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の理念・目的のもとに特色ある職業教育が行われているか ・社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか ・人事・給与に関する規定等は整備されているか ・業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか ・教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか ・関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修などが行われているか
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	評価項目は設定しない

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

- ・自己採点に基づき下記の項目について意見聴取を行い、学校運営の改善を図る。

【教育理念・目標】

- ・学校自己評価に相違なし。

⇒入学後も学校理念や教育目標を学生や保護者へ訴求していきたい。

【学校運営】

- ・学校自己評価に相違なし。規定等は整備されているが、教員不足・長時間残業により教員の福祉向上が図れているか疑問である。

⇒学生や動物の福祉向上だけをうたう学校ではなく、教員への福祉向上が図れるように取り組んでいきたい。そのためにも教員の確保や施設の修繕・改修を進めていきたい。また、教員が自己啓発や自身の能力開発のための研修参加を積極的に促していきたい。

【教育活動】

- ・学校自己評価に相違なし。学生数増加により教員の確保が必要となるが校友会を含めてサポートしていきたい。

⇒学生数増加、教育の質を高めるためには教員の確保は絶対必要である。今後も卒業生や業界団体とは密に連絡を取り合い、業界経験者が専門学校で人材育成に取り組むことができるよう道を作っていく検討したい。

【学修成果】

- ・学校自己評価に相違なし。

⇒オンライン授業や動画配信授業の理解度の確認、実習の復習動画の作成など、オンライン授業化することで学生の理解度の向上と教員の業務負担軽減を促進していきたい。

【学生支援】

- ・学校自己評価に相違なし。卒業生への支援も校友会ホームページなどで再就職先の告知ができている。

⇒卒業生支援についてはスキルアップセミナーなどがコロナ禍で開催できなかつたため今後はコロナの様子をみつつ開催を検討したい。

【教育環境】

- ・学校自己評価に相違なし。学生数増加によりHR教室や実習室が手狭になっていると感じる。

⇒教員や学生からも改善希望が挙がっているため中長期的にはなるが校舎修繕・改修を検討している。

【学生の受入れ募集】

- ・学校自己評価に相違なし。コロナ禍で在籍者数を伸ばしていることは大変良い。

⇒入学相談スタッフが積極的に県内外問わず高校訪問や進路ガイダンスに参加できた。オンラインオープンキャンパスも継続している。教育効果はパンフレットやWeBサイトへの掲載によって公開されている。

【財務】

- ・学校自己評価に相違なし。

⇒今後も健全な財務状況になるべく管理を徹底する。

【法令等の遵守】

- ・学校自己評価に相違なし。

⇒今後も法令の遵守に努め、新任教職員はコンプライアンス検定受験、全教職員へは研修への参加を必須とする。

【社会貢献・地域貢献】

- ・学校自己評価に相違なし。夜間動物病院との連携は新潟県内の飼い主に対して大きな貢献をしている。

⇒夜間動物病院との連携(学生の見学やインターンシップも含めて)を強化していきたい。また2022度はアクアリウム学科教員と学生が運営をするWaN水族館を初開催し、地域の小中学生と保護者へアクアリウムの世界の学びを提供した。(説明・観察・体験)

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所 属	任期	種別
小野 智弘	うさぎとあなた オーナー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
佐藤 大輝	wan on one 代表	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.wan-c.jp/wp-content/themes/wan2022/img/pdf/r2_schoolrelationship.pdf

公表時期: 令和4年10月3日

(別途、以下の資料を提出)

* 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2

* 自己評価結果公開資料

* 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

業界・団体との連携による実践的な職業教育を行う本校が、ペット・動物関連企業等との連携および協力の推進に資するため、学校関係者等に対し、学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供し、説明する等理解を得ることに努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・教育理念、教育方針、教育指針・育成する人材像・人間力育成のための指針・所在地、連絡先、校長名・学校の沿革
(2)各学科等の教育	・入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、定員、在学生数・学科概要・進級・卒業の要件・主な資格、検定の実績・学科別取得目標資格、検定
(3)教職員	・教員の専門性、担当科目
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・就職サポートシステム、就職支援の取り組み状況・実践的な実習授業の状況・就職実績
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事・施設設備・ボランティア活動実績・サークル活動
(6)学生の生活支援	・生活支援のための学生寮、アパート紹介制度・シングルライフサポート制度・スクールカウンセラー・通学定期、学割発行・学生総合保障制度、学生割引き特典等
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金額・就学のための経済的支援措置の内容
(8)学校の財務	・独立監査人の監査報告(資金収支書・消費収支書・貸借対照表)
(9)学校評価	・自己評価結果と改善策・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	・海外からの講師招聘の状況・海外研修
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ 広報誌等の刊行物・その他())
URL <https://www.wan-c.jp/wp-content/themes/wan2022/img/pdf/basicinformation.pdf?170925>

公表時期: 令和4年10月3日

(別途、以下の資料を提出)

* 情報提供している資料

事務担当責任者	フリガナ	クラタ ジュンコ	所属部署	教務部
	氏名	倉田 純子	役職名	部長
	所在地	〒 950-0911 新潟市中央区笹口2-13-4		
	TEL	025-240-8321	FAX	025-240-8931
	E-mail	kurata.junko@nsg.gr.jp		

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 ドッグトレーニング学科)										企業等との連携				
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法		場所	教員	
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技				校内	校外	専任	兼任	
1	○		飼養管理士総論	動物種の生態、管理や飼育方法について知識を身に付ける。また、動物に関する法理についても学ぶ。愛玩動物飼養管理2級の合格に向け、対策授業を行う。	1 前	32	2	○			○	○		
2	○		エキゾチックアニマル I	現在飼育されている動物は、犬猫だけではないため、生体の特徴、飼育方法を理解する。販売に携わる際には、飼育方法をアドバイスできるようになる。	1 前	32	2	○			○		○	
3	○		動物関係法規	動物取扱現場及び、公衆衛生、環境関連の動物関連の法規について理解を深め、動物福祉と安全な社会づくりに貢献する専門職として順守の精神を養う。	1 前	32	2	○			○	○		
4	○		解剖学・生理学	動物の体の基本構造やはたらきをまず理解した上で、各組織での検査や代表的な疾患を把握する。	1 後	32	2	○			○	○		
5	○		人と動物の関係学	現在、国際的に動物愛護がどのように進んでいるのか？日本の現状は？今後取り組んでいく課題は何なのか？を学ぶ。	1 通	48	3	○			○	○	○	
6	○		AAA実習	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係と心理学的および社会学的側面から理解する。また、動物介在活動を安全に実施するにあたり必要な配慮やリスク管理を理解する。	1 前	32	2	○			○		○	
7	○		グルーミング理論	グルーミング実習を行う上でのグルーミングの目的、流れ、道具名とその使用方法を学ぶ。また、犬種についての知識も学ぶ。	1 前	16	1	○			○		○	
8	○		グルーミング実習	動物のプロとして必要な日頃のケアについて学ぶ。グルーミングの流れ、注意点について学ぶ。	1 後	32	1				○	○		○
9	○		動物飼育実習	実習前座学：実習前に必要な知識を伝え、なぜ行うのか理由から方法を覚えられるようにする 実習：座学で得た知識を実践する。到達目標を細かく刻み、自信を持ってもらう。掃除においてはインターナンシップと基本となる項目。動物を触るだけが、仕事ではないため、率先して動ける人材へ。	1 通	64	2				○	○	○	
10	○		しつけトレーニング実習	正の強化と負の強化を使ったトレーニング方法を理解し、実行できるようになる。	1 通	64	2				○	○		○
11	○		ドッグトレーニング実習 I	1年生と2年生が同じトレーニングを行い、2年生が1年生にトレーニングの方法を伝えることで、人に伝える力を養う。1年生は2年生の伝え方を学び、トレーニング技術を向上する。	1 後	32	1				○	○		○

12	○		ドッグマネジメント I	健康管理や必要な道具、管理で注意すべきことなどを理解する。パワーポイントや資料配布で授業を進めていく。	1 前	32	2	○			○	○		
13	○		犬の世話と管理 I	犬の管理について理解を深める。	1 後	64	2			○	○	○		
14	○		コミュニケーション実践 I	対面交流場面における「話す」行為において、相手の状況を正しく理解した上で、自分の意志を目的や場面に応じた適切な表現でわかりやすく示し、効果的に相手に伝えることを学ぶ。コミュニケーション検定初級合格を目指すために、対策授業を行い、合格点に達しない者は補講を行う。	1 前	32	2	○			○	○		
15	○		ビジネスマナー	組織、お客様、取引先などと良好な人間関係を保つつつ、仕事の成果をあげるためにビジネスマナーを身につける。社会人常識マナー検定3級合格に向けて、過去問題を使用しての対策授業を行う。	1 前	32	2	○			○	○		
16	○		就職実務 I	働く意義をしっかり理解した上で就職活動を進めていく。身だしなみセミナー、求職登録面接、就職研修、インターンシップを通して、翌年の就職活動を意識する。	1 後	32	2	○			○	○		
17	○		コンピュータ実習	文書入力をある程度の速さで、正確に行えるようにする。Wordの理解を深め、活用できる基本技能を身につける。	1 通	64	2			○	○		○	
18	○		ペットフード概論	主に犬猫におけるペットフードの種類と目的、選び方を学ぶ。また、与えてはいけない食べ物の種類と症状を学び、代替食品があることを提案できるようになる。様々なペットフードやパンフレットに記載されている専門用語を理解し、飼い主に適切な栄養相談および指導を行う際の基礎知識を習得する。	1 後	32	2	○			○	○		
19	○		動物看護概論	動物病院での診療補助の概要を学び、生態を取り扱う業種において日常の健康チェックとケアの知識を習得する。	1 前	32	2	○			○		○	
20	○		ドッグスポーツ実習 I	ドッグスポーツの競技について理解し、ハードルレースとアジリティについて担当犬とトレーニングを行う。トレーニングは各担当グループで考えながらどのようにトレーニングしていくかを進めていく。	1 後	32	1			○	○		○	○
21	○		ペットビジネス概論	ペット業界を取り囲む社会の現状を知り、どのようなサービスがあるか、どのようなサービスが求められているかを学ぶ。	1 後	32	2	○			○		○	
22	○		犬管理実習	一般の犬を預かることで飼い主と犬とのコミュニケーション能力の向上。知らない犬をハンドリングすることで危険を予測、回避するリスクマネジメント能力の向上。	1 後	64	2			○	○	○		
23	○		エキゾチックアニマル II	ペットショップで販売されているエキゾチックアニマルについて学ぶ。飼い主に飼育方法をアドバイスできようになる。	2 前	32	2	○			○	○		
24	○		しつけインストラクター実習	1. DT担当犬のトレーニング実技を行う。 2. 授業内でプレゼンテーションの練習、しつけ教室を開催、飼い主指導が出来るようになる。 3. 最終試験として筆記試験、実技、プレゼンテーションを実施。	2 通	144	5			○	○		○	
25	○		ドッグトレーニング実習 II	グッドシチズンテスト（以下GCTと記載）について理解を深め、各項目についてトレーニングを行うことで家庭犬に必要なトレーニングができるようになる。更に、他のトレーニングを行うことで、犬とのコミュニケーションを図れるようになる。	2 通	96	3			○	○		○	

26	○		ドッグトレーニング実習Ⅲ	GCTとマナーハンドラーテストに必要なトレーニングを実施する。家庭犬に必要なトレーニングとどのように教えるかを考えさせながら、授業を進める。	2 通	96	3			○	○		○	○
27	○		ドッグスポーツ実習Ⅱ	ドッグスポーツの競技について理解し、ハーダルレースとアジリティについて担当犬とトレーニングを行う。	2 前	64	2			○	○		○	○
28	○		ドッグレクリエーション	犬とのコミュニケーションを図るための、ゲーム、レクリエーションを考案する。また、ドッグダンスを創作し発表する。	2 通	40	1	○		○	○		○	
29	○		犬の世話と管理Ⅱ	1頭の犬の管理を複数人以上で行い、担当者間で情報共有を行いながら進めていく。	2 通	256	8			○	○		○	
30	○		ドッグマネジメントⅡ	担当犬の管理を進めていく上で、検討が必要なことやグループ内で共有することなどを決定していく。	2 前	32	2	○		○	○		○	
31	○		コミュニケーション実践Ⅱ	1年次に勉強したビジネスマナーを復習し、社会人になる準備を始める。	2 後	16	1	○		○	○		○	
32	○		就職実務Ⅱ	毎日の生活を豊かに有意義に過ごすためにも、自分らしい生きがいややりがいを持って働くためにも、働く意義をしっかりと理解した上で就職活動を進めていく。	2 前	16	1	○		○	○		○	
33	○		動物看護実習	動物病院での業務として、診療補助、一般的な検査業務、受付業務を学ぶ	2 前	32	2	○		○	○		○	
34	○		犬管理実習Ⅱ	一般の犬を預かることで飼い主と犬とのコミュニケーション能力の向上。知らない犬をハンドリングすることで危険を予測、回避するリスクマネジメント能力の向上。	2 通	64	2			○	○		○	
35	○		異文化研究	異国の文化（言語、気候、風習、歴史など）を研究することで日本との違いなどを考察する。また、実際に海外に行き異国の文化に触れることで理解する。	2 後	8	1	○		○	○		○	
合計				35科目	1,760単位時間(74単位)									

1年次864時間、2年次896時間（選択必修の最小時間）
計1,760時間

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
年間総授業時限数の90%以上を出席科目の評価が全て「C」以上学校指定の検定を2つ以上合格授業料、その他の納入金を完納、または、所定の手続きを終える	1学期の授業期間	16週

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																																		
国際ペットワールド専門学校	平成12年1月7日	学校長 田中 和志	〒 950-0911 (住所) 新潟市中央区笹口2-13-4 (電話) 025-240-8321																																																		
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																																		
学校法人国際総合学園	昭和32年10月10日	理事長 池田 祥護	〒 951-8063 (住所) 新潟市中央区古町通2-541 (電話) 025-210-8565																																																		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																																																
文化・教養	文化・教養専門課程	動物飼育管理学科		平成29年文部科学省告示第30号	-																																																
学科の目的	企業その他関係機関との連携の下、ペット、動物関連分野の職業人として必要な実務に関する知識や技能及び実践的かつ専門的な能力を習得し、動物やペット関連分野の職業人として、地域社会、関連産業界、国家、国際社会の発展に寄与する人材を育成する。																																																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は単位数	講義	演習	実習	実験																																															
3年	昼間	2658	1336	0	1322	0																																															
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																																
75	84	0人	3	17	20																																																
学期制度	■前期:4月1日～9月18日 ■後期:9月19日～3月31日			成績評価	<p>■成績表: 有</p> <p>■成績評価の基準・方法</p> <p>評価の基準: S(100～95)、A(94～80)、B(79～70)、C(69～60)、D(69以下)</p> <p>評価の方法: 期末試験を実施</p>																																																
長期休み	■夏期休業:7月29日～8月20日 ■冬期休業:12月23日～1月8日			卒業・進級条件	<p>卒業要件: 年間同授業時間の90%以上を出席、科目の評価が全て「C」以上、学校指定の検定を二つ以上合格、授業料、その他の納入金を感應、又は、所定の手続きを終える</p> <p>進級要件: 年間同授業時間の90%以上を出席、科目の評価が全て「C」以上、授業料、その他の納入金を感應、又は、所定の手続きを終える</p>																																																
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 クラス担任、課長、教務部長、その他教務と連携して、相談対応を行なっている。必要に応じ、カウンセラーを導入している。			課外活動	<p>■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 スポーツサークル・ゲームサークルを週1回実施。学外ボランティアへの参加、オープンキャンパス・運動会・学園祭実行委員等。</p> <p>■サークル活動: 有</p>																																																
就職等の状況	<p>■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 動物病院、ペットショップ、ペットサービス企業</p> <p>■就職指導内容 目標とする業界の現状やニーズ、内容を説明する。個々の進路選択についてアドバイスを行う。応募書類作成、面接、インターンシップについての指導や手配を行う。</p> <table border="1"> <tr> <td>■卒業者数</td><td>22</td><td>人</td></tr> <tr> <td>■就職希望者数</td><td>17</td><td>人</td></tr> <tr> <td>■就職者数</td><td>17</td><td>人</td></tr> <tr> <td>■就職率</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr> <td>■卒業者に占める就職者の割合</td><td>77</td><td>%</td></tr> </table> <p>■その他</p>			■卒業者数	22	人	■就職希望者数	17	人	■就職者数	17	人	■就職率	100	%	■卒業者に占める就職者の割合	77	%	主な学修成果(資格・検定等)	<p>■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ミュージカル検定初級</td><td>③</td><td>22</td><td>22</td></tr> <tr> <td>社会人英語ネイティブ検定3級</td><td>③</td><td>22</td><td>20</td></tr> <tr> <td>児童動物飼育管理士2級</td><td>③</td><td>22</td><td>22</td></tr> <tr> <td>Wan!検定3級</td><td>③</td><td>22</td><td>21</td></tr> <tr> <td>Exon検定3級</td><td>③</td><td>22</td><td>20</td></tr> <tr> <td>ペット栄養管理士</td><td>③</td><td>21</td><td>21</td></tr> <tr> <td>ホリスティックケアカウンセラー</td><td>③</td><td>22</td><td>22</td></tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> <p>■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等</p>		資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ミュージカル検定初級	③	22	22	社会人英語ネイティブ検定3級	③	22	20	児童動物飼育管理士2級	③	22	22	Wan!検定3級	③	22	21	Exon検定3級	③	22	20	ペット栄養管理士	③	21	21	ホリスティックケアカウンセラー	③	22	22
■卒業者数	22	人																																																			
■就職希望者数	17	人																																																			
■就職者数	17	人																																																			
■就職率	100	%																																																			
■卒業者に占める就職者の割合	77	%																																																			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																																		
ミュージカル検定初級	③	22	22																																																		
社会人英語ネイティブ検定3級	③	22	20																																																		
児童動物飼育管理士2級	③	22	22																																																		
Wan!検定3級	③	22	21																																																		
Exon検定3級	③	22	20																																																		
ペット栄養管理士	③	21	21																																																		
ホリスティックケアカウンセラー	③	22	22																																																		
中途退学の現状	<p>■中途退学者 1名 ■中退率 2 %</p> <p>令和4年4月1日時点において、在学者69名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者68名(令和5年3月31日卒業者を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等</p> <p>人間関係がうまく保てない</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 専門のカウンセラーによるカウンセリング、転科、休学等の提案を行う。</p>			非給付対象																																																	
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 成績優秀者に対する入学選考料や入学金、授業料の減免制度 家族、知人などの紹介や同時在籍による学費の免除制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付: ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>			非給付対象																																																	
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																																				
当該学科のホームページURL	https://www.wan-c.jp/																																																				

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

動物飼育管理学科 企業連携については開校以来積極的に推進しており、ペタバイト、新潟市動物ふれあいセンターを中心に講師の派遣、施設を利用した実習などを行っており、新潟県外よりアニマルリテラシー総研、日本動物園水族館協会より講師を招き、ペットや展示動物の福祉・生態・飼育管理、動物園のありかたについて特別研修(講義及び実習)も行っている。

教育課程編成においては、獣医師会、ペットサービスを行っている企業、動物の福祉の情報提供・啓蒙を行っている企業、動物の展示施設、動物愛護センター、ペットショップ等動物及びペット関連企業から広く意見を徴収し、カリキュラムやシラバスの改善、実習内容の精査、人間力指導の向上等に活用し、教育力の向上を図っている。
その成果として、実践に即した即戦力、人間力が養われる環境にある。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会構成員は企業関係者等と当校教員から成るものとし、教育課程編成委員会は教務部の下に置く。委員は動物・ペット関連業界の動向及び学科専門分野に関する知見を有する有識者及び実務に関する知識、技術、技能についての知見を有する企業の役職員を含むものとする。委員会で出た意見はカリキュラム検討会議で審議されたのち、校長の許可を経て決定する。企業・団体と学校が一体となり、互いの意見を十分に活かし、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置づけている。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
成島 悅雄	いきもの文化研究所 所長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
白井 佑	新潟市動物ふれあいセンター センター長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
倉田 純子	国際ペットワールド専門学校 教務部長	—	—
山下 静香	国際ペットワールド専門学校	—	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (12月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年12月15日 11:00～12:00

第2回 令和5年3月28日 15:00～16:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

愛玩動物を中心とした小動物(犬、猫含む)の飼育管理についてのカリキュラム内容となっているが、動物園や牧場などでは大動物を扱う。現在のカリキュラムでは、大動物に関する授業が少ないため、大動物に関する授業や動物園の展示について取り入れてみてはどうか

⇒学内で大動物の飼育は難しいので研修でその知識を補えるように研修を検討する。小動物については学内だけではなくインターンシップを強化していきたい。

(別途、以下の資料を提出)

- * 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程
- * 教育課程編成委員会等の規則
- * 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-1
- * 学校又は法人の組織図
- * 教育課程編成委員会等の開催記録

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

常に最新の知識の教授や技術指導が行えるよう、学校と企業が密接に連携した体制を築き、より実践的な職業教育が実現できるよう努める。講義及び実習の両方において、より実践的な専門知識、技術、社会性を身につける、プロとしての職業観を得ることも目的とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本学科と業界・団体等が協定書を締結し、実習前に担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習目標を明確にした上で、実習内容や学生の学修成果の評価方法・評価指標について定める。実習期間中は、学生の実習実施状況や能力習得状況を定期的に把握できるよう相互に情報交換を行う。実習修了時には、目標の達成状況の確認をするとともに、実習講師により学修の成果を評価してもらう。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
人と動物の関係学	現在、国際的に動物愛護がどのように進んでいるのか？日本の現状は？今後取り組んでいく課題は何なのか？を学ぶ。	一般社団法人アニマルリテラシー総研
AAA特論Ⅰ	動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育など社会活動を学ぶ。	株式会社スターべツ
AAA概論Ⅰ	動物介在活動と動物介在療法、動物介在教育の違いを理解する。	一般社団法人アニマルリテラシー総研
AAA概論Ⅱ	動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育におけるボランティア教育について理解する。	一般社団法人アニマルリテラシー総研
AAA概論Ⅲ	動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育における動物の適性評価と施設評価について理解する。	一般社団法人アニマルリテラシー総研

(別途、以下の資料を提出)

* 企業等との連携に関する協定書等や講師契約書(本人の同意書及び企業等の承諾書)等

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推奨学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

全教員は学生指導力の向上のために各自の「教員資質」、「能力」、「専門力」を高めるよう努めなければならない。
校長及び上長は企業等で実施される研修情報を収集すると共に、各教員の経験、スキル、能力を勘案し必要な研修への参加を命ずる。また外部講師を招いた学内研修も計画的に実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名： わんこを育む食の授業 連携企業等： あじな動物病院

期間： 2023年3月31日～6月11日 対象： 稲川

内容 手作りご飯と生食を学ぶ

研修名： 災害ボランティア研修～ケーススタディ編～ 連携企業等： 日本財団ボランティアセンター

期間： 2023年6月21日 対象： 佐山

内容 ペットと一緒に被災したら？今できる備え(豪雨編)

研修名： 犬に関するお悩みのあれこれ 連携企業等： 一般社団法人優良家庭犬普及協会

期間： 2023年7月29日 対象： 中野

内容 犬との生活においてトレーニングなどの行動管理を学ぶ

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名： 関係性が変わり行動が変わる1on1のすすめ 連携企業等： 実践行動学研究所

期間： 2023年7月11日 対象： 倉田、小林、秋元

内容 新しいコミュニケーション手法の導入を学ぶ

研修名： 今までと何が違う、生徒指導の現場から 連携企業等： 新潟県専門学校協会

期間： 2023年7月13日 対象： 倉田、遠藤

内容 各学校の学生指導の事例発表及び意見交換

研修名： アンガーマネジメント研修 連携企業等： 学校法人国際総合学園

期間： 2023年7月26日 対象： 山下、竹石、野口

内容 怒りの感情に責任を持ち、どのようにコントロールすればよいかを学ぶ

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ブリードレスキューってなに	連携企業等:	一般社団法人優良家庭犬普及協会
期間:	2023年9月9日	対象:	中野
内容	あらゆる犬たちに手を差し伸べる取り組みに向けて		
研修名:	災害ボランティア研修～ケーススタディ編～	連携企業等:	日本財団ボランティアセンター
期間:	2023年9月26日	対象:	佐山
内容	悲惨地の実態から学ぶ避難生活・避難所運営		
研修名:	米国ペットスペース バーチャル施設見学	連携企業等:	ライトハウス
期間:	2023年10月24日	対象:	斎藤、竹石
内容	ロサンゼルスにある動物愛護施設をオンラインで見学し、サービスや運営について学ぶ		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	実践行動学ファシリテーター養成講座	連携企業等:	実践行動学研究所
期間:	2023/8/22～23、2023/8/29～30	対象:	中山、本間、斎藤、野口
内容	学生へ実践行動学を指導できる公認 ファシリテーターとして動機付けや授業技術の手法を学ぶ		
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

(別途、以下の資料を提出)

- * 研修等に係る諸規程
- * 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績)
- * 研修等の計画(推薦年度における計画)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、専門分野関連企業等及び、卒業生、保護者、近隣住民などから選出した委員で構成する「学校関係者評価委員会」を設置して評価を実施し、評価結果を学校運営全般及び教育活動の改善等に生かす。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか ・社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか ・教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか ・関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修などが行われているか
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	評価項目は設定しない

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

・自己採点に基づき下記の項目について意見聴取を行い、学校運営の改善を図る。

【教育理念・目標】

・学校自己評価に相違なし。

⇒入学後も学校理念や教育目標を学生や保護者へ訴求していきたい。

【学校運営】

・学校自己評価に相違なし。規定等は整備されているが、教員不足・長時間残業により教員の福祉向上が図れているか疑問である。

⇒学生や動物の福祉向上だけをうたう学校ではなく、教員への福祉向上が図れるように取り組んでいきたい。そのためにも教員の確保や施設の修繕・改修を進めていきたい。また、教員が自己啓発や自身の能力開発のための研修参加を積極的に促していきたい。

【教育活動】

・学校自己評価に相違なし。学生数増加により教員の確保が必要となるが校友会を含めてサポートしていきたい。

⇒学生数増加、教育の質を高めるためには教員の確保は絶対必要である。今後も卒業生や業界団体とは密に連絡を取り合い、業界経験者が専門学校で人材育成に取り組むことができるよう道を作っていく検討したい。

【学修成果】

・学校自己評価に相違なし。

⇒オンライン授業や動画配信授業の理解度の確認、実習の復習動画の作成など、オンライン授業化することで学生の理解度の向上と教員の業務負担軽減を促していきたい。

【学生支援】

・学校自己評価に相違なし。卒業生への支援も校友会ホームページなどで再就職先の告知ができる。

⇒卒業生支援についてはスキルアップセミナーなどがコロナ禍で開催できなかつたため今後はコロナの様子をみつつ開催を検討したい。

【教育環境】

・学校自己評価に相違なし。学生数増加によりHR教室や実習室が手狭になっていると感じる。

⇒教員や学生からも改善希望が挙がっているため中長期的にはなるが校舎修繕・改修を検討している。

【学生の受入れ募集】

・学校自己評価に相違なし。コロナ禍で在籍者数を伸ばしていることは大変良い。

⇒入学相談スタッフが積極的に県内外問わず高校訪問や進路ガイダンスに参加できた。オンラインオープンキャンパスも継続している。教育効果はパンフレットやWebサイトへの掲載によって公開されている。

【財務】

・学校自己評価に相違なし。

⇒今後も健全な財務状況になるべく管理を徹底する。

【法令等の遵守】

・学校自己評価に相違なし。

⇒今後も法令の遵守に努め、新任教職員はコンプライアンス検定受験、全教職員へは研修への参加を必須とする。

【社会貢献・地域貢献】

・学校自己評価に相違なし。夜間動物病院との連携は新潟県内の飼い主に対して大きな貢献をしている。

⇒夜間動物病院との連携(学生の見学やインターンシップも含めて)を強化していきたい。また2022度はアクアリウム学科教員と学生が運営をするWaN水族館を初開催し、地域の小中学生と保護者へアクアリウムの世界の学びを提供した。(説明・観察・体験)

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所 属	任期	種別
小野 智弘	うさぎとあなた オーナー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
佐藤 大輝	wan on one 代表	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

・ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.wan-c.jp/wp-content/themes/wan2022/img/pdf/r2_schoolrelationship.pdf

公表時期: 令和4年10月3日

(別途、以下の資料を提出)

* 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2

* 自己評価結果公開資料

* 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

業界・団体との連携による実践的な職業教育を行う本校が、ペット・動物関連企業等との連携および協力の推進に資するため、学校関係者等に対し、学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供し、説明する等理解を得ることに努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・教育理念、教育方針、教育指針・育成する人材像・人間力育成のための指針・所在地、連絡先、校長名・学校の沿革
(2)各学科等の教育	・入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、定員、在学生数・学科概要・進級・卒業の要件・主な資格、検定の実績・学科別取得目標資格、検定
(3)教職員	・教員の専門性、担当科目
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・就職サポートシステム、就職支援の取り組み状況・実践的な実習授業の状況・就職実績
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事・施設設備・ボランティア活動実績・サークル活動
(6)学生の生活支援	・生活支援のための学生寮、アパート紹介制度・シングルライフサポート制度・スクールカウンセラー・通学定期、学割発行・学生総合保障制度、学生割引き特典等
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金額・就学のための経済的支援措置の内容
(8)学校の財務	・独立監査人の監査報告(資金収支書・消費収支書・貸借対照表)
(9)学校評価	・自己評価結果と改善策・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	・海外からの講師招聘の状況・海外研修
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.wan-c.jp/wp-content/themes/wan2022/img/pdf/basicinformation.pdf?170925>

公表時期: 令和4年10月3日

(別途、以下の資料を提出)

* 情報提供している資料

事務担当責任者	フリガナ	クラタ ジュンコ	所属部署	教務部
	氏名	倉田 純子	役職名	部長
	所在地	〒950-0911 新潟市中央区笹口2-13-4		
	TEL	025-240-8321	FAX	025-240-8931
	E-mail	kurata.junko@nsg.gr.jp		

(備考)

・用紙の大きさは、日本産業規格A4とする(別紙様式1-2、2-1、2-2、3-1、3-2、4、5、6、7、8についても同じ。)。

授業科目等の概要

必修	(文化・教養専門課程 動物飼育管理学科)			授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法		場所	教員	企業等との連携	
	選択必修	自由選択	授業科目名					講義	演習				
								実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1 ○			ビジネスマナー	組織、お客様、取引先などと良好な人間関係を保ちつつ、仕事の成果をあげるためにビジネスマナーを身につける。また、9月に受験をする社会人常識マナー検定に向けて、過去問題は宿題で行い、合格点に達しない学生は補講を行い、合格であります準備を整える。	1 前	32	2	○		○	○		
2 ○			コンピュータ実習 I	日本語文章入力をある程度の速さで、正確に行えるようにする。Excelの理解を深め、自信をもって活用できる基本技能を身につける。Wordの理解を深め、活用できる基本技能を身につける。	1 通	64	2			○	○	○	
3 ○			コミュニケーション実践 I	対面交流場面における「話す」行為において、相手の状況を正しく理解した上で、自分の意志を目的や場面に応じた適切な表現でわかりやすく示し、効果的に相手に伝えることを学ぶ。社会人常識マナー検定3級の合格を目指すために、対策授業を行い、合格点に達しない者は補講を行う。	1 前	32	2	○		○	○		
4 ○			就職実務 I	毎日の生活を豊かに有意義に過ごすためにも、自分らしい生きがいややりがいを持って働くためにも、働く意義をしっかりと理解した上で就職活動を進めていく。身だしなみセミナー、求職登録面接、就職研修、インターンシップを通して、翌年(翌々年)の就職活動を意識する。	1 後	32	2	○		○	○		
5 ○			しつけトレーニング実習	1. 犬のトレーニング実技を行う。 2. 実際の道具やデモンストレーションを見る。 3. テキストやホワイトボードを使用し内容を説明。	1 通	64	2			○	○	○	
6 ○			人と動物の関係学	現在、国際的に動物愛護がどのように進んでいるのか?日本の現状は?今後取り組んでいく課題は何なのか?を学ぶ。	1 通	48	3	○		○	○		
7 ○			AAA概論 I	動物介在活動と動物介在療法の基本を理解する。	1 通	48	3	○		○	○	○	
8 ○			AAA実習 I	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係と心理学的および社会学的側面から理解する。また、動物介在活動を安全に実施するにあたり必要な配慮やリスク管理を理解する。	1 前	32	1			○	○	○	
9 ○			AAA総論	AAA、AATについて理解をすること目的に、訪問活動に必要な様々な技術を実践形式で行い、日々の生活でも活用できるよう身に付ける。	1 通	64	4	○		○	○		
10 ○			飼養管理士総論	動物が「命」あるものとし、「人と動物の共生」が必要となっている。そのための動物種の生態、管理や飼育方法について知識を身に付ける。また、動物に関連する法理についても学ぶ。愛玩動物飼養管理2級の合格に向け、授業を行っていく。	1 前	32	2	○		○	○		
11 ○			エキゾチックアニマル I	現在飼育されている動物は、犬猫だけではないため、生体の特徴、飼育方法を理解する。販売に携わる際には、飼育方法をアドバイスできるようになる。	1 前	32	2	○		○	○		

12	○		動物関係法規	動物取扱現場及び、公衆衛生、環境関連の動物関連の法規について理解を深め、動物福祉と安全な社会づくりに貢献する専門職として順守の精神を養う。愛玩動物飼養管理士2級合格へ向けて、検定出題範囲の関連法について理解を深める。	1 後	32	2	○			○	○					
13	○		動物飼育実習 I	実習前座学：実習前に必要な知識を伝え、なぜ行うのか理由から方法を覚えられるようにする 実習：座学で得た知識を実践する。到達目標を細かく刻み、自信を持ってもらう。掃除においてはインターナンシップと基本となる項目。動物を触るだけが、仕事ではないため、率先して動ける人材へ	1 通	64	2			○	○	○	○				
14	○		動物飼育実践 I	新潟市動物ふれあいセンターで現場スタッフの一員として展示動物と譲渡対象動物の飼育管理方法を学ぶ。また、お客様への応対を学ぶ。 1人あたり：90分×1コマ座学+実習180分×2コマ実習	1 通	10	1			○	○	○	○	○			
15	○		解剖・生理学	動物の体の基本構造やはたらきをまず理解した上で、各組織での検査や代表的な疾患を把握する。	1 後	32	2	○			○	○					
16	○		動物栄養学 I	動物の健康維持に必要な栄養素を学び、その基礎知識を活用して各論の学習に進む準備のため、まずはイヌとネコの六大栄養素についての知識を、動物の生理学に立脚した栄養学を総論として学び、様々なペットフードやパンフレットに記載されている専門用語を理解し、飼い主に適切な栄養相談および指導を行う際の基礎知識を習得する。	1 後	32	2	○			○	○					
17	○		公衆衛生学	各種微生物の基礎知識の習得、及び消毒・滅菌について理解をし、感染症についての知識を身につける。	1 後	32	2	○			○	○					
18	○		動物看護概論 I	動物病院での診療補助の概要を学び、生態を取り扱う業種において日常の健康チェックとケアの知識を習得する。	1 前	32	2	○		○	○	○					
19	○		グルーミング理論	グルーミング実習を行う上でのグルーミングの目的、流れ、道具名とその使用方法を学ぶ。また、犬種についての知識も学ぶ。	1 前	16	1	○			○	○					
20	○		グルーミング実習	動物のプロとして必要な日頃のケアについて学ぶ。グルーミングの流れ、注意点について学ぶ。	1 前	32	1			○	○		○				
21	○		心理学	人が行動を起こすための仕組みを知る。	1 前	16	1	○			○	○					
22	○		カウンセリング話法	カウンセリングの技術を通して、人との接し方、話し方の技術を習得する。	1 後	16	1	○			○	○					
23	○		動物園学概論	動物園とは何かを学び、動物園の未来について考える。展示動物の福祉について学び考える。	1 後	24	1	○			○	○					
24	○		コミュニケーション概論 I	コミュニケーションの持つ力を理解しコミュニケーション能力の礎とする。	1 通	64	4	○			○	○					
25	○		コミュニケーション実践 II	前半はプレゼンテーションを行うことで、人前に立って話す力を養い、またその話を聞いてコメントを言える力を養う。後半は求職登録面接やインターネットアップに向けて、どのような手順で作成していくかを学ぶ。	2 前	32	2	○			○	○					

26	○		就職実務 II	毎日の生活を豊かに有意義に過ごすためにも、自分らしい生きがいややりがいを持って働くためにも、働く意義をしっかり理解した上で就職活動を進めていく。	2 後	32	2	○			○	○	
27	○		コミュニケーション概論 II	コミュニケーションの持つ力を理解しコミュニケーション能力の基礎とする	2 通	64	4	○			○	○	
28	○		AAA概論 II	動物介在活動と動物介在療法を理解することができる。	2 通	96	6	○			○	○	○
29	○		AAA実習 II	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係と心理学的および社会学的側面から理解し、実際の高齢者施設へ動物達を連れて訪問する	2 通	64	2				○	○	○
30	○		AAA実践 I	訪問活動で必要となる「伝える力」を意識し、クラスメイトとのチームコミュニケーションを身につけ、自分自身がAAA実習を楽しんで参加できるように事前学習を行う。	2 通	64	4	○			○	○	
31	○		AAA特論 I	人と動物の絆(HAB)の理念と動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育など社会活動を理解し、人と動物の共生に寄与する。	2 後	16	1	○			○		○
32	○		エキゾチックアニマル II	ペットショップで販売されているエキゾチックアニマルについて学ぶ。飼い主に飼育方法をアドバイスできようになる。	2 前	32	2	○			○	○	
33	○		動物の病気	犬と猫の病気全般の機序、症状、検査あるいは治療等について理解する。	2 前	32	2	○			○	○	
34	○		動物看護実習	動物病院での業務として、診療補助、一般的な検査業務、受付業務を学ぶ	2 前	32	2				○	○	○
35	○		ドッグトレーニング実習 I	犬の接点から観察、基礎ハンドリングまで行い就職後お客様や患者様の愛犬を扱う際に備える。飼い主様が犬と豊かに過ごせるための必要になる道具を使い方含めて経験し必要性を伝える技術を磨く。	2 通	48	2				○	○	○
36	○		ドッグトレーニング実習 II	学校の犬で基礎的なトレーニングを行い、トレーニングを通して犬へのアプローチを学ぶ。トレーニングに関する知識習得と、実際のハンドリングを授業内で行う。	2 通	64	2				○	○	○
37	○		動物飼育実習 II	1、動物種ごとの適切な食事や環境を提供できるようになる。 2、犬の飼育に必要な接し方・ハンドリング・ケア方法を実践できるようになる。 3、猫・小動物の飼育に必要な接し方・ケアの方 法を実践できるようになる	2 通	64	2				○	○	○
38	○		グルーミング実践 I	2人で小型犬のシャンプーが30分、トータル90分で終了出来るようになる。また、個体に合ったシャンプー剤や作業が出来るようになる。	2 後	64	2				○	○	○
39	○		動物栄養学 II	栄養学的管理が疾患の治療と健康の維持に大きく関連する疾病について各論として学ぶ。獣医師によって予後診断された中で、動物看護師が栄養学的な管理に関わられる疾患について学び、課程での最適な管理を飼い主に指導できる知識を習得する	2 通	48	3	○			○		○

40	○		食品学	ペットフードの原材料となる食品の栄養的特性や利用に関する知識、添加物や表示に関する知識を修得する。また、食品栄養成分表の活用実践し、エネルギーと栄養素の算出方法を学ぶ。手作り食を試食を実践で学ぶ。	2 通	64	4	○			○		○	
41	○		アニマルコミュニケーション	海外からの特別講義。アニマルコミュニケーションの最先端の情報を取得。	2 後	24	1	○			○		○	○
42	○		ペットケア実習	・犬、猫、うさぎ、モルモット、ハムスターの爪切り、耳掃除等の身体的ケアを実践する（シャンプーを除く） ・Tタッチ、リーディング、ボディラップの技法と効果を学び実践する ・ハーブ、マッサージ、ペットエステの効果を学び実践する	2 後	64	2			○	○	○		
43	○		就職実務Ⅲ	毎日の生活を豊かに有意義に過ごすためにも、自分らしい生きがいややりがいを持って働くためにも、働く意義をしっかり理解した上で就職活動を進めていく。	3 後	16	1	○			○	○		
44	○		コミュニケーション実践Ⅲ	1年次に勉強したビジネスマナーを復習し、社会人になる準備を始める。	3 前	32	2	○			○	○		
45	○		異文化研究	異国の文化（言語、気候、風習、歴史など）を研究することで日本との違いなどを考察する。また、実際に海外に行き異国の文化に触ることで理解を目指す。	3 後	8	1	○			○	○	○	
46	○		ドッグトレーニング実習Ⅲ	犬の接点から観察、基礎ハンドリングまで行い就職後お客様や患者様の愛犬を扱う際に備える。飼い主様が犬と豊かに過ごせるための必要になる道具を使い方含めて経験し必要性を伝える技術を磨く。	3 前	48	2			○	○		○	
47	○		ドッグトレーニング実習Ⅳ	マナーハンドラーテストの合格を目指し、テストの項目についてのトレーニングを細分化しながら授業を進める。	3 通	64	2			○	○		○	
48	○		AAA概論Ⅲ	動物介在活動と動物介在療法を理解することができる。	3 通	96	6	○			○		○	○
49	○		AAA特論Ⅱ	人と動物の絆（HAB）の理念と動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育など社会活動を理解し、人と動物の共生に寄与する。	3 後	16	1	○			○		○	○
50	○		AAA実習Ⅲ	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係と心理学的および社会学的側面から理解し、実際の高齢者施設へ動物達を連れて訪問する	3 通	192	6			○	○	○	○	
51	○		AAA実践Ⅱ	AAA実習の事前授業として、訪問活動に必要な技術を磨く。	3 通	64	2	○			○	○		
52	○		動物飼育実習Ⅲ	1、個体別ごとに適切な食事や環境を提供できるようになる 2、個体別に合わせたの犬の飼育に必要な接し方・ハンドリング・ケア方法を実践できるようになる 3、個体別に合わせた猫・小動物の飼育に必要な接し方・ケアの方法を学び実践する	3 通	64	2			○	○	○	○	
53	○		グルーミング実践Ⅱ	1人でグルーミングを行う際の準備や時間配分等を考え実践する。	3 後	32	1			○	○	○		

54	○	栄養管理実践	WaNファミリーの栄養管理を行う。問題点やQOL向上の観点から栄養面にアプローチをかける。必要な栄養素や飼い主のコンプライアンスに目を向け、担当を与えることで責任感を意識させる。就職を見据えた意識改革を行う。	3 通	64	2			○	○	○	
55	○	ペット栄養管理士対策	基礎栄養学をより深く掘り下げ、6大栄養素と消化生理について、生化学を学ぶ。疾病的病態生理や要求栄養素の違いを理解し、特別療法食による食事指導ができるペット栄養管理士を目指す。また、法律、ペットフードの原料や添加物について理解し、ペットフードの輸入・製造・販売業者に必要な知識を習得する。	3 通	112	7	○		○	○		
56	○	SNS実習	SNSや動画投稿サイトを利用し、情報発信や人を引き付けるコンテンツの作成を学ぶ。	3 通	64	2			○	○	○	
合計			56科目 2,658単位時間(129単位) 1年次882時間、2年次904時間(選択必修の最小時間)、3年次872時間 計2,658時間									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
年間総授業時限数の90%以上を出席科目の評価が全て「C」以上学校指定の検定を2つ以上合格授業料、その他の納入金を完納、または、所定の手続きを終える		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	16週

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																																											
国際ペットワールド専門学校		平成12年1月7日	学校長 田中 和志	〒 950-0911 (住所) 新潟市中央区笹口2-13-4 (電話) 025-240-8321																																											
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																																											
学校法人国際総合学園		昭和32年10月10日	理事長 池田 栄護	〒 951-8063 (住所) 新潟市中央区古町通2-541 (電話) 025-210-8565																																											
分野	認定課程名		認定学科名	専門士	高度専門士																																										
文化・教養	文化・教養専門課程		ペット栄養・メディカルトリマー学科	平成22年文部科学省告示 第三十号	-																																										
学科の目的	企業その他の関係機関との連携の下、ペット・動物関連分野の職業人として必要な実務に関する知識や技能及び実践的かつ専門的な能力を習得し、トリマー、動物病院診療補助、ペット栄養管理士、またはその他動物やペット関連分野の職業人として、地域社会、関連産業界、国家、国際社会の発展に寄与する人材を育成する。																																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																								
2年	昼間	1832	744	0	1088	0	0																																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																										
40	42	0人	2人	18人	20人																																										
学期制度	■前期:4月1日～9月18日 ■後期:9月19日～3月31日			成績評価	■成績表: 有																																										
					■成績評価の基準・方法 評価の基準: S(100～85), A(94～80), B(79～70), C(69～60), D(59以下) 評価の方法: 期末試験を実施																																										
長期休み	■夏期休業:7月29日～8月20日 ■冬期休業:12月23日～1月8日			卒業・進級条件	卒業要件: 年間の授業時間の90%以上を出席、科目の評価が全て「C」以上、学校指定の検定を二つ以上合格、授業料、その他の納入金を感應、又は、所定の手続きを終える																																										
					進級要件: 年間同授業時間の90%以上を出席、科目の評価が全て「C」以上、授業料、その他の納入金を感應、又は、所定の手続きを終える																																										
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 クラス担任、課長、教務部長、その他教務と連携して、相談対応を行なっている。必要に応じ、カウンセラーを導入している。			課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 スポーツサークル、ゲームサークルを週1回実施、学外ボランティアへの参加、オープンキャンパス・運動会・学園祭実行委員会等。 ■サークル活動: 有																																										
					■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)																																										
就職等の状況	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 動物病院、ペットショップ、トリミングサロン、ペットサービス企業 ■就職指導内容 目標とする業界の現状やニーズ、内容を説明する。個々の進路選択についてアドバイスを行う。応募書類作成、面接、インターンシップについての指導や手配を行う。 ■卒業者数 11 人 ■就職希望者数 10 人 ■就職者数 10 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 91 % ■その他			主な学修成果 (資格・検定等)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コミュニケーション検定初級</td> <td>③</td> <td>11</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>社会人常識マナー検定1級</td> <td>③</td> <td>11</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>愛玩動物看護管理士2級</td> <td>③</td> <td>11</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>Word検定3級</td> <td>③</td> <td>11</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>Excel検定3級</td> <td>③</td> <td>11</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>ペット看護管理士</td> <td>③</td> <td>11</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>ワロントリマー検定3級</td> <td>③</td> <td>11</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>ワロントリマー検定2級</td> <td>③</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> <p>■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等</p>			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	コミュニケーション検定初級	③	11	11	社会人常識マナー検定1級	③	11	11	愛玩動物看護管理士2級	③	11	11	Word検定3級	③	11	11	Excel検定3級	③	11	6	ペット看護管理士	③	11	10	ワロントリマー検定3級	③	11	11	ワロントリマー検定2級	③	10	10				
					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																							
					コミュニケーション検定初級	③	11	11																																							
					社会人常識マナー検定1級	③	11	11																																							
					愛玩動物看護管理士2級	③	11	11																																							
					Word検定3級	③	11	11																																							
					Excel検定3級	③	11	6																																							
					ペット看護管理士	③	11	10																																							
					ワロントリマー検定3級	③	11	11																																							
					ワロントリマー検定2級	③	10	10																																							
(令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)																																															
■中途退学者 0 名 ■中退率 0 %																																															
令和4年4月1日時点において、在学者28名(令和4年4月1日入学者を含む) 令5年3月31時点において、在学者28名(令和5年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等																																															
■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 専門のカウンセラーによるカウンセリング、転科、休学等の提案を行う。																																															
■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 成績優秀者に対する入学選考料や入学金、授業料の減免制度 家族、知人などの紹介や同時在籍による学費の免除制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																															
■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL																																															
当該学科のホームページURL: https://www.wan-c.jp/																																															

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ペット栄養・メディカルトリマー学科 企業連携については開校以来積極的に推進しており、ミリオンペット、ワンダフルを中心に講師の派遣、施設を利用した実習などを行っている。教育課程編成委員会の提案により、学生の教養を深めるためにドッグショーの見学、卒業生からの業界説明会なども毎年実施している。また、日本小動物獣医師会の研修を受け、動物看護助手の検定を受験している。

教育課程編成においては、獣医師会、愛玩動物協会、トリミングサロン、ペットショップ等動物及びペット関連企業から広く意見を収集し、カリキュラムやシラバスの改善、実習内容の精査、人間力指導の向上等に活用し、教育力の向上を図っている。

その成果として 実践に即した即戦力 人間力が養われる環境にある。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会構成員は企業関係者等と当校教員から成るものとし、教育課程編成委員会は教務部の下に置く。委員は動物・ペット関連業界の動向及び学科専門分野に関する知見を有する有識者及び実務に関する知識、技術、技能についての知見を有する企業の役職員を含むものとする。委員会で出た意見はカリキュラム検討会議で審議されたのち、校長の許可を経て決定する。企業・団体と学校が一体となり、互いの意見を十分に活かし、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置づけている。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所 属	任期	種別
川口 和清	公益社団法人日本愛玩動物協会 顧問	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
加藤 郁巳	ドッグサロンワンダフル 代表	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
倉田 純子	国際ペットワールド専門学校 教務部長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
稻川 祥子	国際ペットワールド専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (12月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年12月15日 11:00～12:00

第2回 令和5年3月28日 15:00～16:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

企業への定期的なインターンシップを取り入れた実践的なカリキュラムが必要である。

動物の診察補助業務とトリマー業務への意識が平等に働く人材を育成してほしい。

⇒カリキュラムについて次年度以降検討する。トリマーへ意識が傾く学生が多いため、動物病院で働くことも意識させるようなシラバスの作成や特別講義の導入を行っていきたい。

(別途、以下の資料を提出)

* 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程

* 教育課程編成委員会等の規則

* 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-1

* 学校又は法人の組織図

* 教育課程編成委員会等の開催記録

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

常に最新の知識の教授や技術指導が行えるよう、学校と企業が密接に連携した体制を築き、より実践的な職業教育が実現できるよう努める。講義及び実習の両方において、より実践的な専門知識、技術、社会性を身につける、プロとしての職業観を得ることも目的とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本学科と業界・団体等が協定書を締結し、実習前に担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習目標を明確にした上で、実習内容や学生の学修成果の評価方法・評価指標について定める。実習期間中は、学生の実習実施状況や能力習得状況を定期的に把握できるよう相互に情報交換を行う。実習修了時には、目標の達成状況の確認をするとともに、実習講師により学修の成果を評価してもらう。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
人と動物の関係学	現在、国際的に動物愛護がどのように進んでいるのか？日本の現状は？今後取り組んでいく課題は何なのか？を学ぶ。	一般社団法人アニマルリテラシー総研
グルーミング実習Ⅰ	グルーミングにより犬の生理や健康管理、衛生管理を行う。1人1頭の犬をグルーミングを行い、サロントリマー検定3級合格(小型犬グルーミングができる)を目指す。	株式会社エムケープラン
グルーミング実習Ⅱ	グルーミングにより犬の生理や健康管理、衛生管理を行う。1人1頭の犬をグルーミングを行い、サロントリマー検定2級合格(小型犬のペットカットができる)を目指す。	株式会社エムケープラン

(別途、以下の資料を提出)

* 企業等との連携に関する協定書等や講師契約書(本人の同意書及び企業等の承諾書)等

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

全教員は学生指導力の向上のために各自の「教員資質」、「能力」、「専門力」を高めるよう努めなければならない。校長及び上長は企業等で実施される研修情報を収集すると共に、各教員の経験、スキル、能力を勘案し必要な研修への参加を命ずる。また外部講師を招いた学内研修も計画的に実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	FCI北陸甲信越インターナショナルドッグショー見学	連携企業等:	ジャパンケンNELクラブ
------	---------------------------	--------	--------------

期間:	2023年6月11日	対象:	山田、平石
-----	------------	-----	-------

内容	ドッグショーとは何か、犬種についても学ぶ
----	----------------------

研修名:	トリマー教員研修会	連携企業等:	MAGICBOX
------	-----------	--------	----------

期間:	2023年5月10日～7月26日毎週水曜日17:30～19:30	対象:	山田、梅本、斎藤、中野
-----	----------------------------------	-----	-------------

内容	ラムクリップについて学びサロントリマー検定検定員A級を目指す
----	--------------------------------

研修名:	わんこを育む食の授業	連携企業等:	あじな動物病院
------	------------	--------	---------

期間:	2023年3月31日～6月11日	対象:	稻川
-----	------------------	-----	----

内容	手作りご飯と生食を学ぶ
----	-------------

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	関係性が変わり行動が変わる1on1のすすめ	連携企業等:	実践行動学研究所
------	-----------------------	--------	----------

期間:	2023年7月11日	対象:	倉田、小林、秋元
-----	------------	-----	----------

内容	新しいコミュニケーション手法の導入を学ぶ
----	----------------------

研修名:	今までと何が違う、生徒指導の現場から	連携企業等:	新潟県専門学校協会
------	--------------------	--------	-----------

期間:	2023年7月13日	対象:	倉田、遠藤
-----	------------	-----	-------

内容	各学校の学生指導の事例発表及び意見交換
----	---------------------

研修名:	アンガーマネジメント研修	連携企業等:	学校法人国際総合学園
------	--------------	--------	------------

期間:	2023年7月26日	対象:	稻川、平石
-----	------------	-----	-------

内容	怒りの感情に責任を持ち、どのようにコントロールすればよいかを学ぶ
----	----------------------------------

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ヒルズフードアドバイザープログラム アドバンスドコース	連携企業等:	日本ヒルズコレクター株式会社 ヒルズフードアドバイザープログラム委員会
期間:	2023年度8月10日～9月15日	対象:	稻川
内容	ペット栄養及びフードについて学ぶ		
研修名:	米国ヘルシースポット バーチャル施設見学	連携企業等:	ライトハウス
期間:	2023年10月23日	対象:	山田、平石、梅本
内容	ロサンゼルスにある美容・トレーニング・グッズ販売のサービスを行っている施設をオンラインで見学し、サービスや運営について学ぶ		
研修名:	トリマー教員研修会	連携企業等:	MAGICBOX
期間:	2023年9月21日～2月1日毎週木曜日17:30～19:30	対象:	山田、梅本、斎藤、中野
内容	ラムクリップについて学びサロントリマー検定検定員A級を目指す		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	実践行動学ファシリテーター養成講座	連携企業等:	実践行動学研究所
期間:	2023/8/22～23、2023/8/29～30	対象:	中山、本間、斎藤、野口
内容	学生へ実践行動学を指導できる公認 ファシリテーターとして動機付けや授業技術の手法を学ぶ		
研修名:	トリマー教員研修会	連携企業等:	全国動物専門学校協会
期間:	2023年度8月2日	対象:	山田、梅本、斎藤
内容	ラムクリップの指導について学ぶ		
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

(別途、以下の資料を提出)

- * 研修等に係る諸規程
- * 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績)
- * 研修等の計画(推薦年度における計画)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、専門分野関連企業等及び、卒業生、保護者、近隣住民などから選出した委員で構成する「学校関係者評価委員会」を設置して評価を実施し、評価結果を学校運営全般及び教育活動の改善等に生かす。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか ・社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか ・教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか ・関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修などが行われているか
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	評価項目は設定しない

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

・自己採点に基づき下記の項目について意見聴取を行い、学校運営の改善を図る。

【教育理念・目標】

・学校自己評価に相違なし。

⇒入学後も学校理念や教育目標を学生や保護者へ訴求していきたい。

【学校運営】

・学校自己評価に相違なし。規定等は整備されているが、教員不足・長時間残業により教員の福祉向上が図れているか疑問である。

⇒学生や動物の福祉向上だけをうたう学校ではなく、教員への福祉向上が図れるように取り組んでいきたい。そのためにも教員の確保や施設の修繕・改修を進めたい。また、教員が自己啓発や自身の能力開発のための研修参加を積極的に促していきたい。

【教育活動】

・学校自己評価に相違なし。学生数増加により教員の確保が必要となるが校友会を含めてサポートしていきたい。

⇒学生数増加、教育の質を高めるためには教員の確保は絶対必要である。今後も卒業生や業界団体とは密に連絡を取り合い、業界経験者が専門学校で人材育成に取り組むことができるよう道を作っていく検討したい。

【学修成果】

・学校自己評価に相違なし。

⇒オンライン授業や動画配信授業の理解度の確認、実習の復習動画の作成など、オンライン授業化することで学生の理解度の向上と教員の業務負担軽減を促進していきたい。

【学生支援】

・学校自己評価に相違なし。卒業生への支援も校友会ホームページなどで再就職先の告知ができる。

⇒卒業生支援についてはスキルアップセミナーなどがコロナ禍で開催できなかつたため今後はコロナの様子をみつつ開催を検討したい。

【教育環境】

・学校自己評価に相違なし。学生数増加によりHR教室や実習室が手狭になっていると感じる。

⇒教員や学生からも改善希望が挙がっているため中長期的にはなるが校舎修繕・改修を検討している。

【学生の受入れ募集】

・学校自己評価に相違なし。コロナ禍で在籍者数を伸ばしていることは大変良い。

⇒入学相談スタッフが積極的に県内外問わず高校訪問や進路ガイダンスに参加できた。オンラインオープンキャンパスも継続している。教育効果はパンフレットやWebサイトへの掲載によって公開されている。

【財務】

・学校自己評価に相違なし。

⇒今後も健全な財務状況になるべく管理を徹底する。

【法令等の遵守】

・学校自己評価に相違なし。

⇒今後も法令の遵守に努め、新任教職員はコンプライアンス検定受験、全教職員へは研修への参加を必須とする。

【社会貢献・地域貢献】

・学校自己評価に相違なし。夜間動物病院との連携は新潟県内の飼い主に対して大きな貢献をしている。

⇒夜間動物病院との連携(学生の見学やインターンシップも含めて)を強化していきたい。また2022度はアクアリム学科教員と学生が運営をするWaN水族館を初開催し、地域の小中学生と保護者へアクアリウムの世界の学びを提供した。(説明・観察・体験)

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所 属	任期	種別
小野 智弘	うさぎとあなた オーナー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
佐藤 大輝	wan on one 代表	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.wan-c.jp/wp-content/themes/wan2022/img/pdf/r2_schoolrelationship.pdf

公表時期: 令和4年10月3日

(別途、以下の資料を提出)

* 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2

* 自己評価結果公開資料

* 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

業界・団体との連携による実践的な職業教育を行う本校が、ペット・動物関連企業等との連携および協力の推進に資するため、学校関係者等に対し、学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供し、説明する等理解を得ることに努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・教育理念、教育方針、教育指針・育成する人材像・人間力育成のための指針・所在地、連絡先、校長名・学校の沿革
(2)各学科等の教育	・入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、定員、在学生数・学科概要・進級・卒業の要件・主な資格、検定の実績・学科別取得目標資格、検定
(3)教職員	・教員の専門性、担当科目
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・就職サポートシステム、就職支援の取り組み状況・実践的な実習授業の状況・就職実績
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事・施設設備・ボランティア活動実績・サークル活動
(6)学生の生活支援	・生活支援のための学生寮、アパート紹介制度・シングルライフサポート制度・スクールカウンセラー・通学定期、学割発行・学生総合保障制度、学生割引き特典等
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金額・就学のための経済的支援措置の内容
(8)学校の財務	・独立監査人の監査報告(資金収支書・消費収支書・貸借対照表)
(9)学校評価	・自己評価結果と改善策・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	・海外からの講師招聘の状況・海外研修
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL <https://www.wan-c.jp/wp-content/themes/wan2022/img/pdf/basicinformation.pdf?170925>

公表時期: 令和4年10月3日

(別途、以下の資料を提出)

* 情報提供している資料

事務担当責任者	フリガナ	クラタ ジュンコ	所属部署	教務部
	氏名	倉田 純子	役職名	部長
	所在地	〒 950-0911 新潟市中央区笹口2-13-4		
	TEL	025-240-8321	FAX	025-240-8931
	E-mail	kuratajunko@nsg.gr.jp		

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 ペット栄養・メディカルトリマー学科)										企業等との連携				
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法		場所	教員	
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技				校内	校外	専任	兼任	
1	○		ビジネスマナー	組織、お客様、取引先などと良好な人間関係を保つつゝ、仕事の成果をあげるためにビジネスマナーを身につける。9月に受験をする社会人常識マナー検定に向けて合格できる準備を整える。	1 前	32	2	○			○	○		
2	○		コンピュータ実習	日本語文章入力をある程度の速さで、正確に行えるようにする Wordの理解を深め、活用できる基本技能を身につける	1 通	64	2				○	○		○
3	○		コミュニケーション実践 I	対面交流場面における「話す」行為において、相手の状況を正しく理解した上で、自分の意志を目的や場面に応じた適切な表現でわかりやすく示し、効果的に相手に伝えることを学ぶ。コミュニケーション検定初級合格を目指すために、対策授業を行い、合格点に達しない者は補講を行う。	1 前	32	2	○			○	○		
4	○		就職実務 I	毎日の生活を豊かに有意義に過ごすためにも、自分らしい生きがいややりがいを持って働くためにも、働く意義をしっかりと理解した上で就職活動を進めていく。身だしなみセミナー、求職登録面接、就職研修、インターンシップを通して、翌年（翌々年）の就職活動を意識する。	1 後	32	2	○			○	○		
5	○		しつけトレーニング実習	1. 犬のトレーニング実技を行う。 2. 実際の道具やデモンストレーションを見る。 3. テキストやホワイトボードを使用し内容を説明。	1 通	64	2				○	○		○
6	○		人と動物の関係学	現在、国際的に動物愛護がどのように進んでいるのか？日本の現状は？今後取り組んでいく課題は何なのか？を学ぶ。	1 通	48	3	○			○			○
7	○		AAA総論	AAA、AAATについて理解をすることを目的に、訪問活動に必要な様々な技術を実践形式で行い、日々の生活でも活用できるよう身に付ける。	1 前	16	1	○			○	○		
8	○		飼養管理士総論	動物種の生態、管理や飼育方法について知識を身に付ける。また、動物に関連する法理についても学ぶ。 愛玩動物飼養管理2級の合格に向け、授業を行っていく。	1 通	32	2	○			○	○		
9	○		エキゾチックアニマル	現在飼育されている動物は、犬猫だけではないため、生体の特徴、飼育方法を理解する。販売に携わる際には、飼育方法をアドバイスできるようになる。	1 前	32	2	○			○			○
10	○		動物飼育実習	実習前座学：実習前に必要な知識を伝え、なぜ行うのか理由から方法を覚えられるようにする 実習：座学で得た知識を実践する。到達目標を細かく刻み、自信を持ってもらう。掃除においてはインターンシップと基本となる項目。動物を触るだけが、仕事ではないため、率先して動ける人材へ。	1 通	64	2				○	○		○

11	○		動物関係法規	動物取扱現場及び、公衆衛生、環境関連の動物関連の法規について理解を深め、動物福祉と安全な社会づくりに貢献する専門職として順守の精神を養う。愛玩動物飼養管理士2級合格へ向けて、検定出題範囲の関連法について理解を深める。	1 後	32	2	○		○	○		
12	○		解剖・生理学	動物の体の基本構造やはたらきをまず理解した上で、各組織での検査や代表的な疾患を把握する。	1 後	32	2	○		○	○		
13	○		動物栄養学Ⅰ	動物の健康維持に必要な栄養素を学び、その基礎知識を活用して各論の学習に進む準備のため、まずはイヌとネコの六大栄養素についての知識を、動物の生理学に立脚した栄養学を総論として学び、様々なペットフードやパンフレットに記載されている専門用語を理解し、飼い主に適切な栄養相談および指導を行う際の基礎知識を習得する。	1 後	32	2	○		○	○		
14	○		動物看護概論	動物病院での診療補助を学ぶ	1 前	32	1	○		○	○		
15	○		グルーミング実習Ⅰ	グルーミング技術の習得。犬種ごとに安全なグルーミングが出来るようになる。グルーミングにより犬の生理や健康管理、衛生管理を行う。1人1頭の犬をグルーミングを行う。	1 通	384	12			○	○	○	○
16	○		グルーミング理論	グルーミング実習を行う上でのグルーミングの目的、流れ、道具名、使用方法を学ぶ。グルーミングを行う上での注意点を理解する。また、犬種についての知識も学ぶ。	1 前	16	1	○		○	○		
17	○		トリミング理論	各犬種ごとのペットカットのトリミングスタイルを学ぶ。ペットカットには、決まりがないため、まずはスタンダードを理解する。	1 前	16	1	○		○	○		
18	○		造形美術	ドッグマネキンをカットすることで、実際のトリミングのイメージをつかむ。また、道具の扱い方の練習を行う。立体のスタイルを作り上げる際に必要な観察力、想像力、形体を構成する力を学ぶ。	1 通	32	1			○	○		
19	○		コミュニケーション実践Ⅱ	1年次に勉強したビジネスマナーを復習し、社会人になる準備を始める。	2 前	16	1	○		○	○		
20	○		就職実務Ⅱ	毎日の生活を豊かに有意義に過ごすためにも、自分らしい生きがいややりがいを持って働くためにも、働く意義をしっかりと理解した上で就職活動を進めていく。	2 前	16	1	○		○	○		
21	○		異文化研究（海外研修）	異国の文化（言語、気候、風習、歴史など）を研究することで日本との違いなどを考察する。、実際に海外に行き異国の文化に触れることで理解を目指す。	2 後	8	1	○		○	○		
22	○		公衆衛生学	各種微生物の基礎知識の習得、及び消毒・滅菌について理解をし、感染症についての知識を身につける	2 後	32	2	○		○	○		
23	○		動物看護実習	動物病院での業務として、診療補助、一般的な検査業務、受付業務を学ぶ。1年生で履修している動物看護概論から引き続き、より実践的に検査実習なども盛り込み、看護技術のレベルアップを図る。	2 通	32	2			○	○	○	
24	○		動物の病気	犬と猫の病気全般の機序、症状、検査あるいは治療等について理解する。	2 前	32	2	○		○	○		

25	○		グルーミング実習Ⅱ	グルーミング技術の習得。犬種ごとに安全なグルーミングが出来るようになる。グルーミングにより犬の生理や健康管理、衛生管理を行う。1人1頭の犬をグルーミングを行う。	2 通	384	12			○		○	○	○
26	○		動物栄養学Ⅱ	栄養学的管理が疾患の治療と健康の維持に大きく関連する疾病について各論として学ぶ。獣医師によって予後診断された中で、動物看護師が栄養学的な管理に関わられる疾患について学び、課程での最適な管理を飼い主に指導できる知識を習得する。	2 通	48	3	○			○	○		
27	○		食品学	ペットフードの原材料となる食品の栄養的特性や利用に関する知識、添加物や表示に関する知識を修得する。また、食品栄養成分表の活用実践し、エネルギーと栄養素の算出方法を学ぶ。手作り食を試食を実践で学ぶ。	2 通	64	4	○			○	○		
28	○		栄養管理実践	動物の一般状態から栄養状態を見極め、問題点を探り改善提案をしてQOL向上を目指す。	2 通	64	2			○	○	○		
29	○		ペット栄養管理士対策	基礎栄養学をより深く掘り下げ、6大栄養素と消化生理について、生化学を学ぶ。疾病的病態生理や要求栄養素の違いを理解し、特別療法食による食事指導ができるペット栄養管理士を目指す。また、法律、ペットフードの原料や添加物について理解し、ペットフードの輸入・製造・販売業者に必要な知識を習得する。	2 通	112	5	○			○	○		
30	○		動物診療助手対策	動物病院で動物診療助手兼トリマーとしても活躍できる人材を目指すために必要な知識を習得する。	2 前	32	2	○			○		○	

30科目 1,832単位時間(79単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
年間総授業時限数の90%以上を出席科目の評価が全て「C」以上学校指定の検定を2つ以上合格授業料、その他の納入金を完納、または、所定の手続きを終える	1学年の学期区分	2期

1学年の授業期間

16週

職業実践専門課程の基本情報について

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ネイチャーアクアリウム学科 企業連携については開校以来積極的に推進しており、日本動物園水族館協会、株式会社アクアデザインアマノを中心に講師の派遣、施設を利用した実習などを行っており、新潟県外より水生生物員やネイチャーガイド、海洋生物ジャーナリストを招き海洋生物や水産資源、自然環境の特別研修(講義及び実習)も行っている。また海外研修も養鯉業の見学を取り入れたり、錦鯉の品評会ボランティアに積極的に参加をしている。

教育課程編成においては、水槽メンテナンス、観賞魚、錦鯉、アクアリウムショップなどの関連企業から意見を収集し、カリキュラムやシラバスの改善、実習内容の精査、人間力指導の向上等に活用し、教育力の向上を図っている。その成果として、実践に即した即戦力、人間力が養われる環境にある。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会構成員は企業関係者等と当校教員から成るものとし、教育課程編成委員会は教務部の下に置く。委員は動物・ペット関連業界の動向及び学科専門分野に関する知見を有する有識者及び実務に関する知識、技術、技能についての知見を有する企業の役職員を含むものとする。委員会で出た意見はカリキュラム検討会議で審議されたのち、校長の許可を経て決定する。企業・団体と学校が一体となり、互いの意見を十分に活かし、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置づけている。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
滋野 実	日本観賞魚振興事業協同組合 事務局長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
本間 裕介	株式会社アクアデザインアマノ 次長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
樹神 衛	株式会社新潟鯉グローバル 代表	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
倉田 純子	国際ペットワールド専門学校 教務部長	-	-
佐藤 真司	国際ペットワールド専門学校	-	-

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (12月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年12月15日 11:00～12:00

第2回 令和5年3月28日 15:00～16:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

アクアデザインアマノでは里斯ボン水族館にある世界最大のネイチャーアクアリウム水槽管理している(現在卒業生は不在)ため、ぜひ見学をしてみたらどうか。学校のホームページやインスタグラムをみてもあまりアクアリウム関連が少ないので、学校や学科の認知度をあげるためにSNSを多く活用してはどうか。

養鯉業の人材育成のためにも錦鯉の授業を増やしたり、学内での錦鯉の飼育数を増やしてみたらどうか。

⇒海外研修については次年度以降研修として検討する。SNSでの情報発信は至急実施していただきたい。

錦鯉の授業については指導できる人材を探すことを検討する。学内での飼育数も徐々に増やすことを検討する。

(別途、以下の資料を提出)

* 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程

* 教育課程編成委員会等の規則

* 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-1

* 学校又は法人の組織図

* 教育課程編成委員会等の開催記録

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

常に最新の知識の教授や技術指導が行えるよう、学校と企業が密接に連携した体制を築き、より実践的な職業教育が実現できるよう努める。講義及び実習の両方において、より実践的な専門知識、技術、社会性を身につける、プロとしての職業観を得ることも目的とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

* 授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本学科と業界・団体等が協定書を締結し、実習前に担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習目標を明確にした上で、実習内容や学生の学修成果の評価方法・評価指標について定める。実習期間中は、学生の実習実施状況や能力習得状況を定期的に把握できるよう相互に情報交換を行う。実習修了時には、目標の達成状況の確認をするとともに、実習講師により学修の成果を評価してもらう。

(3) 具体的な連携の例 * 科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
造形美術	ネイチャーアクアリウムのデザインを左右する、流木や石の配置方法について、美術的な観点から学ぶ。	(株)アクアデザインアマノ
ネイチャーアクアリウム 実習 I	一人当たり、1つの水槽を使用して、ネイチャーアクアリウムを実際に制作する。	(株)アクアデザインアマノ
ネイチャーアクアリウム実習 II	一人当たり、1つの水槽を使用して、ネイチャーアクアリウムを制作する。また、グループごとに大型水槽で作品制作を行い、コンテストでの入賞を目指す。	(株)アクアデザインアマノ
水界生態学	水圏(河川、湖沼)の生態系について学ぶ。	(株)アクアデザインアマノ
ネイチャーアクアリウムギャラリー実習	ネイチャーアクアリウムギャラリーで、水槽管理の技術を学ぶ。ネイチャーアクアリウムギャラリーでの作業を通して、プロの管理技術を身に付ける。	(株)アクアデザインアマノ

(別途、以下の資料を提出)

* 企業等との連携に関する協定書等や講師契約書(本人の同意書及び企業等の承諾書)等

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推奨学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

全教員は学生指導力の向上のために各自の「教員資質」、「能力」、「専門力」を高めるよう努めなければならない。

校長及び上長は企業等で実施される研修情報を収集すると共に、各教員の経験、スキル、能力を勘案し必要な研修への参加を命ずる。また外部講師を招いた学内研修も計画的に実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第3回水族館研究会	連携企業等:	一般社団法人水族館協会
期間:	2023年3月13日14日	対象:	今井
内容	水生生物に関する研究発表会		
研修名:	第5期通常総会	連携企業等:	一般社団法人水族館協会
期間:	2023年7月6日7日	対象:	今井
内容	海洋生物に関する研究発表会、ワシントン条約国会審議結果について		
研修名:	アクアデザインアマノギャラリー見学	連携企業等:	(株)アクアデザインアマノ
期間:	2023年6月より毎週木曜日13時～17時	対象:	佐藤
内容	水草レイアウトのプロの作品を見学し、構図の組み方、水草の使い方を学び、ネイチャーアクアリウムへの理解を深める		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	関係性が変わり行動が変わる1on1のすすめ	連携企業等:	実践行動学研究所
期間:	2023年7月11日	対象:	倉田、小林、秋元
内容	新しいコミュニケーション手法の導入を学ぶ		
研修名:	今までと何が違う、生徒指導の現場から	連携企業等:	新潟県専門学校協会
期間:	2023年7月13日	対象:	倉田、遠藤
内容	各学校の学生指導の事例発表及び意見交換		
研修名:	アンガーマネジメント研修	連携企業等:	学校法人国際総合学園
期間:	2023年7月26日	対象:	佐藤、今井、富取、滝谷
内容	怒りの感情に責任を持ち、どのようにコントロールすればよいかを学ぶ		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	米国パシフィック水族館 バーチャル施設見学	連携企業等:	ライトハウス
期間:	2023年10月24日	対象:	瀧谷、富取
内容	ロサンゼルスにあるパシフィック水族館をオンラインで見学し、飼育管理・展示方法について学ぶ		
研修名:	カワセミ水族館見学	連携企業等:	カワセミ水族館
期間:	2023年11月予定	対象:	佐藤
内容	淡水の生物を多く展示している水族館を見学して日本海側の水族館との違いを知る。展示方法を学ぶ。		
研修名:	柏崎市サケの遡上見学	連携企業等:	柏崎市
期間:	2023年12月予定	対象:	瀧谷、富取
内容	河川に遡上してくるサケの観察、人工授精体験を行う。受精卵を学校で孵化成育を行い、繁殖事業への理解を深める。		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	実践行動学ファシリテーター養成講座	連携企業等:	実践行動学研究所
期間:	2023/8/22～23、2023/8/29～30	対象:	中山、本間、斎藤、野口
内容	学生へ実践行動学を指導できる公認 ファシリテーターとして動機付けや授業技術の手法を学ぶ		
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

(別途、以下の資料を提出)

- * 研修等に係る諸規程
- * 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績)
- * 研修等の計画(推薦年度における計画)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、専門分野関連企業等及び、卒業生、保護者、近隣住民などから選出した委員で構成する「学校関係者評価委員会」を設置して評価を実施し、評価結果を学校運営全般及び教育活動の改善等に生かす。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか ・社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか ・教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか ・関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定・進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修などが行われているか
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	評価項目は設定しない

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

・自己採点に基づき下記の項目について意見聴取を行い、学校運営の改善を図る。

【教育理念・目標】

・学校自己評価に相違なし。

⇒入学後も学校理念や教育目標を学生や保護者へ訴求していきたい。

【学校運営】

・学校自己評価に相違なし。規定等は整備されているが、教員不足・長時間残業により教員の福祉向上が図れているか疑問である。

⇒学生や動物の福祉向上だけをうたう学校ではなく、教員への福祉向上が図れるように取り組んでいきたい。そのためにも教員の確保や施設の修繕・改修を進めたい。また、教員が自己啓発や自身の能力開発のための研修参加を積極的に促していきたい。

【教育活動】

・学校自己評価に相違なし。学生数増加により教員の確保が必要となるが校友会を含めてサポートしていきたい。

⇒学生数増加、教育の質を高めるためには教員の確保は絶対必要である。今後も卒業生や業界団体とは密に連絡を取り合い、業界経験者が専門学校で人材育成に取り組むことができるよう道を作っていく検討したい。

【学修成果】

・学校自己評価に相違なし。

⇒オンライン授業や動画配信授業の理解度の確認、実習の復習動画の作成など、オンライン授業化することで学生の理解度の向上と教員の業務負担軽減を促進していきたい。

【学生支援】

・学校自己評価に相違なし。卒業生への支援も校友会ホームページなどで再就職先の告知ができる。

⇒卒業生支援についてはスキルアップセミナーなどがコロナ禍で開催できなかったため今後はコロナの様子をみつつ開催を検討したい。

【教育環境】

・学校自己評価に相違なし。学生数増加によりHR教室や実習室が手狭になっていると感じる。

⇒教員や学生からも改善希望が挙がっているため中長期的にはなるが校舎修繕・改修を検討している。

【学生の受入れ募集】

・学校自己評価に相違なし。コロナ禍で在籍者数を伸ばしていることは大変良い。

⇒入学相談スタッフが積極的に県内外問わず高校訪問や進路ガイダンスに参加できた。オンラインオープンキャンパスも継続している。教育効果はパンフレットやWebサイトへの掲載によって公開されている。

【財務】

・学校自己評価に相違なし。

⇒今後も健全な財務状況になるべく管理を徹底する。

【法令等の遵守】

・学校自己評価に相違なし。

⇒今後も法令の遵守に努め、新任教職員はコンプライアンス検定受験、全教職員へは研修への参加を必須とする。

【社会貢献・地域貢献】

・学校自己評価に相違なし。夜間動物病院との連携は新潟県内の飼い主に対して大きな貢献をしている。

⇒夜間動物病院との連携(学生の見学やインターンシップも含めて)を強化していきたい。また2022度はアクアリム学科教員と学生が運営をするWaN水族館を初開催し、地域の小中学生と保護者へアクアリウムの世界の学びを提供した。(説明・観察・体験)

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所 属	任期	種別
小野 智弘	うさぎとあなた オーナー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
佐藤 大輝	wan on one 代表	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.wan-c.jp/wp-content/themes/wan2022/img/pdf/r2_schoolrelationship.pdf

公表時期: 令和4年10月3日

(別途、以下の資料を提出)

* 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2

* 自己評価結果公開資料

* 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

業界・団体との連携による実践的な職業教育を行う本校が、ペット・動物関連企業等との連携および協力の推進に資するため、学校関係者等に対し、学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供し、説明する等理解を得ることに努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・教育理念、教育方針、教育指針・育成する人材像・人間力育成のための指針・所在地、連絡先、校長名・学校の沿革
(2)各学科等の教育	・入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、定員、在学生数・学科概要・進級・卒業の要件・主な資格、検定の実績・学科別取得目標資格、検定
(3)教職員	・教員の専門性、担当科目
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・就職サポートシステム、就職支援の取り組み状況・実践的な実習授業の状況・就職実績
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事・施設設備・ボランティア活動実績・サークル活動
(6)学生の生活支援	・生活支援のための学生寮、アパート紹介制度・シングルライフサポート制度・スクールカウンセラー・通学定期、学割発行・学生総合保障制度、学生割引き特典等
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金額・就学のための経済的支援措置の内容
(8)学校の財務	・独立監査人の監査報告(資金収支書・消費収支書・貸借対照表)
(9)学校評価	・自己評価結果と改善策・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	・海外からの講師招聘の状況・海外研修
(11)その他	

*(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.wan-c.jp/wp-content/themes/wan2022/img/pdf/basicinformation.pdf?170925>

公表時期: 令和4年10月3日

(別途、以下の資料を提出)

* 情報提供している資料

事務担当責任者	フリガナ	クラタ ジュンコ	所属部署	教務部
	氏名	倉田 純子	役職名	部長
	所在地	〒 950-0911 新潟市中央区笹口2-13-4		
	TEL	025-240-8321	FAX	025-240-8931
	E-mail	kurata.junko@nsg.gr.jp		

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 ネイチャーアクアリウム学科)										企業等との連携	
分類			授業科目名	授業科目概要				授業方法	場所	教員	
必修	選択必修	自由選択		配当年次・学期	授業時数	単位数	講義				
1	○		コミュニケーション実践 I	対面交流場面における「話す」行為において、相手の状況を正しく理解した上で、自分の意志を目的や場面に応じた適切な表現でわかりやすく示し、効果的に相手に伝えることを学ぶ。コミュニケーション検定初級合格を目指すために、対策授業を行い、合格点に達しない者は補講を行う。	1 前	32	2	○	○	○	
2	○		コンピュータ実習	日本語文章入力をある程度の速さで、正確に行えるようにする。Wordの理解を深め、活用できる基本技能を身につける。	1 通	64	4		○	○	○
3	○		ビジネスマナー	組織、お客様、取引先などと良好な人間関係を保つつゝ、仕事の成果をあげるためにビジネスマナーを身につける。また、9月に受験をする社会人常識マナー検定に向けて、過去問題は宿題で行い、合格点に達しない学生は補講を行い、合格できる準備を整える。	1 前	32	2	○	○	○	
4	○		就職実務 I	毎日の生活を豊かに有意義に過ごすためにも、自分らしい生きがいややりがいを持って働くためにも、働く意義をしっかりと理解した上で就職活動を進めていく。身だしなみセミナー、求職登録面接、就職研修、インターンシップを通して、翌年（翌々年）の就職活動を意識する。	1 後	32	2	○	○	○	
5		○	水槽管理実習 I	水槽メンテナンスの手順を考え、自主的に水槽管理ができるようになる。学内外の水槽管理を行う。	1 後	64	2		○	○	○
6	○		魚病学	観賞魚における魚病の原因、症状、予防・治療に関する基礎知識を学ぶ。魚病の具体的な症例を理解し、観賞魚用医薬品の取り扱い方や使用の際の注意点を学ぶ。	1 前	16	1	○	○	○	○ ○
7	○		観賞魚各論 I	観賞魚として扱われている淡水性熱帯魚の種類と特徴を覚える。	1 前	32	2	○	○	○	
8	○		マリンアクアリウム理論 I	ホームアクアリウムレベルでの海水魚飼育の基礎知識について学ぶ。主に、淡水魚飼育との相違点、海水魚飼育に必要な器具、器具の仕組み、使用上の注意点について紹介する。	1 前	16	1	○	○	○	
9	○		ネイチャーアクアリウム理論	ネイチャーアクアリウムに対する理解を深め、制作から維持管理についての知識を習得する。	1 通	48	3	○	○	○	○ ○
10	○		海洋学	各講義ごとに「海洋の断面構造」や「水の性質」等のテーマを決定し、海洋に関するより深い理解を構築する。	1 後	16	1	○	○	○	○
11	○		魚類概論 I	魚類は呼吸・血液・消化・内分泌・感覚など独自の生理作用を営むものが多い。初学者の理解を深めるため生理学の基本項目から魚類の生理特異性などについて学ぶ。	1 前	32	2	○	○	○	

12	○		水生動植物実験 I	河川、湖沼、地下水、海洋などの水域に生息する水中あるいは水界に密接に依存して生活する動物について学ぶ。	1 通	64	2			○	○		○
13	○		観賞魚飼育実習 I	観賞魚飼育の基礎をネイチャーアクアリウムを通して学ぶ。	1 通	64	2			○	○	○	
14	○		ショップスキル I	アクアリウムショップでの業務で必要な技術や心構えを身につける。挨拶や、生体商品の管理、店舗の管理技術を学ぶ。	1 前	32	2	○		○		○	○
15	○		ネイチャーアクアリウムギャラリー実習 I	株式会社アクアデザインアマノのネイチャーアクアリウムギャラリーで、水槽管理の技術を学ぶ。	1 後	64	2			○	○	○	○
16	○		マリンアクアリウム実習 I	ホームアクアリウムレベルの海水魚の飼育の基本的な知識を修得する。	1 後	32	1			○	○	○	
17	○		ネイチャーアクアリウム実習 I	ネイチャーアクアリウムコース1年生のために、ネイチャーアクアリウムの制作から管理までを実習する。器具の準備から、構図作製、植栽、日常の管理までをできるようにする。	1 通	160	5			○	○		○
18	○		水界生態学	水圏（河川、湖沼）の生態系について学ぶ。	1 前	16	1	○		○		○	○
19	○		水草概論 I	水草の分類、生態、取り扱いについて総合的に学ぶ。	1 後	32	2	○		○		○	○
20	○		造形美術	美しいネイチャーアクアリウムを制作するために必要な、構図作製について学ぶ。	1 前	16	1	○		○		○	○

21	○		昆虫・爬虫類飼育概論	昆虫や爬虫類の生体を理解し、飼育方法や管理において気を付けるべきことを学ぶ。	1 後	32	2	○			○	○		
22	○		コミュニケーション実践Ⅱ	1年次に勉強したビジネスマナーを復習し、社会人になる準備を始める。	2 前	32	2	○			○	○		
23	○		プレゼンテーション	基本的に聴衆となり発表者へアンケートによりフィードバックを行う。自分がプレゼン時には準備を周到に行い、配布資料やプレゼン用ファイルを作成・使用する。	2 後	32	2	○			○	○		
24	○		就職実務Ⅱ	毎日の生活を豊かに有意義に過ごすためにも、自分らしい生きがいややりがいを持って働くためにも、働く意義をしっかりと理解した上で就職活動を進めていく。	2 前	32	2	○			○	○		
25		○	水槽管理実習Ⅱ	水槽メンテナンスの手順を考え、自主的に水槽管理ができるようになる。学内外の水槽管理を行う。	2 通	128	4				○	○	○	
26	○		観賞魚飼育概論	熱帯魚、金魚、淡水魚、海水魚、錦鯉などの観賞魚及び関連用品に関する販売及び管理に携わる専門家になるために必要な内容をテキストに沿って授業を行う。	2 前	16	1	○			○	○	○	○
27	○		ショップスキルⅡ	アクアリウムショップでの業務で必要な技術や心構えを身につける。挨拶や、生体商品の管理、店舗の管理技術を学ぶ。インターンシップや選考実習などの、就職活動で学んだことを活用する。	2 後	16	1	○			○	○	○	
28	○		遺伝・育種学	生物の遺伝についての基礎知識を学ぶ。生物の育種の基本を理解する。	2 後	16	1	○			○	○	○	
29	○		観賞魚飼育・管理士対策	観賞魚飼育・管理士試験ベーシッククラスの合格に向けた対策授業。	2 前	16	1	○			○	○		
30	○		養殖・繁殖学	水生生物の繁殖の基礎知識を学ぶ。観賞魚を含む身近な生物の増養殖についての基礎を学ぶ。	2 後	16	1	○			○	○	○	
31	○		環境・生態保護論	自然環境、生態系をテーマに、生態系の仕組み、現状、保護について学ぶ。	2 後	32	2	○			○	○	○	
32	○		魚類概論Ⅱ	呼吸、血液、温度、消化と吸收、排出・浸透調節、内分泌、生殖、魚の毒、鱈、神経系、感覚について、図や写真、表を用いながら視覚的に学ぶ。	2 後	32	2	○			○	○		
33	○		水生動植物実験Ⅱ	魚類飼育における水質管理・自作ろ過層の製作・自作水槽の製作を行う。また、プランクトン数の計数方法・魚類やイルカの血液の検査方法を習得する。	2 通	48	2				○	○	○	
34	○		マリンアクアリウム理論Ⅱ	クマノミの繁殖、クラゲの飼育、サンゴの飼育など、マリンアクアリウムにおける応用的な飼育に関する知識を習得する。	2 後	32	2	○			○	○	○	
35		○	観賞魚飼育実習Ⅱ	観賞魚の繁殖、飼育難易度が高い観賞魚の飼育、管理を行う。	2 後	64	2				○	○	○	

36	○		ネイチャーアクアリウムギャラリー実習Ⅱ	ネイチャーアクアリウムギャラリーで、水槽管理の技術を学ぶ。ネイチャーアクアリウムギャラリーでの作業を通して、プロの管理技術を身に付ける。	2 前	64	2			○	○	○	○	○
37	○		マリンアクアリウム実習Ⅱ	海水魚の病気の治療、サンゴの飼育方法とレイアウトをマリンアクアリウムを管理しながら学ぶ。	2 後	32	1			○	○	○		
38	○		ネイチャーアクアリウム実習Ⅱ	ネイチャーアクアリウムコース2年生のために、ネイチャーアクアリウムの制作から管理までを実習する。作品を世界水草レイアウトコンテストへ出品する。	2 前	96	3			○	○		○	○
39	○		水草概論Ⅱ	水草の分類、生態、取り扱いについて総合的に学ぶ。	2 前	32	2	○		○		○		
40	○		観賞魚各論Ⅱ	観賞魚として扱われている日本産淡水魚、金魚、錦鯉の種類と特徴を覚える。	2 後	32	2	○		○	○			
41	○		海水魚の病気	白点病について学び判別と対処方法を身に付ける。	2 前	16	1	○		○		○		
42	○		異文化研究	異国の文化（言語、気候、風習、歴史など）を調べ、考察したことをプレゼンテーションする。	2 後	16	3	○		○	○			
43	○		水生動植物研究	指定の水生植物および魚類について、文献調査を行ない基礎知識を学び、発表する。文献調査により指定生物の生態を理解する。資料作成および発表技術を学ぶ。	2 前	16	1	○		○		○		

43科目 1,712単位時間(82単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
年間総授業時限数の90%以上を出席科目の評価が全て「C」以上学校指定の検定を2つ以上合格授業料、その他の納入金を完納、または、所定の手続きを終える	1学年の学期区分	2期

1学年の授業期間 16週

職業実践専門課程の基本情報について

学校名 国際ペットワールド 専門学校	設置認可年月日 平成12年1月7日	校長名 学校長 田中 和志	所在地 〒 950-0911 (住所) 新潟市中央区笹口2-13-4 (電話) 025-240-8321																																				
設置者名 学校法人国際総合学園	設立認可年月日 昭和32年10月10日	代表者名 理事長 池田 祥護	所在地 〒 951-8063 (住所) 新潟市中央区古町通2-541 (電話) 025-210-8565																																				
分野 文化・教養	認定課程名 文化・教養専門課程	認定学科名 ペット美容学科	専門士 平成22年文部科学省告示 第三十号		高度専門士 —																																		
学科の目的 修業年限	企業その他の関係機関との連携の下、ペット、動物関連分野の職業人として必要な実務に関する知識や技能及び実践的かつ専門的な能力を習得し、ペットのトリマーとして、またはその他動物やペット関連分野の職業人として、地域社会、関連産業界、国家、国際社会の発展に寄与する人材を育成する。																																						
修業年限 2年	昼夜 昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は単位 数 1752	講義 456	演習 0	実習 1296	実験 0	実技 0																																
生徒総定員 80	生徒実員 88	留学生数(生徒実員の内) 0人	専任教員数 2	兼任教員数 18	総教員数 20																																		
学期制度 長期休み	■前期:4月1日～9月18日 ■後期:9月19日～3月31日 ■夏期休業:7月29日～8月20日 ■冬期休業:12月23日～1月8日			成績評価 卒業・進級 条件	<p>■成績表: 有</p> <p>■成績評価の基準・方法 評価の基準: S(100～95)、A(94～80)、B(79～70)、C(69～60)、D(59以下)</p> <p>評価の方法: 期末試験を実施</p> <p>卒業要件: 年間同授業時限の90%以上を出席、科目の評価が全て「C」以上、学校指定の検定を二つ以上合格、授業料、その他の納入金を感應、又は、所定の手続きを終える</p> <p>進級要件: 年間同授業時限の90%以上を出席、科目の評価が全て「C」以上、授業料、その他の納入金を感應、又は、所定の手続きを終える</p>																																		
学修支援等 就職等の状況	<p>■クラス担任制: 有</p> <p>■個別相談・指導等の対応 クラス担任、課長、教務部長、その他教務と連携して、相談対応を行なっている。必要に応じ、カウンセラーを導入している。</p> <p>■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) トリミングサロン、動物病院、ペットショップ、ペットサービス企業</p> <p>■就職指導内容 自指す業界の現状やニーズ、内容を説明する。個々の進路選択についてアドバイスを行う。応募書類作成、面接、インターンシップについての指導や手配を行う。</p> <p>■卒業者数 33 人</p> <p>■就職希望者数 32 人</p> <p>■就職者数 32 人</p> <p>■就職率 100 %</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合 : 97 %</p> <p>■その他</p>			課外活動 主な学修成果 (資格・検定等)	<p>■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 スポーツサークル、ゲームサークルを週1回実施。学外ボランティアへの参加、オープンキャンパス・運動会・学園祭実行委員会等。</p> <p>■サークル活動: 有</p> <p>■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ミニカット検定1級</td> <td>③</td> <td>34</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>社会人栄養士検定1級</td> <td>③</td> <td>34</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>実戦動物看護管理士2級</td> <td>③</td> <td>35</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>Word検定3級</td> <td>③</td> <td>34</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>Excel検定3級</td> <td>③</td> <td>33</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>サロントリマー検定3級</td> <td>③</td> <td>35</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>サロントリマー検定1級</td> <td>③</td> <td>32</td> <td>32</td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> <p>■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等</p>			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ミニカット検定1級	③	34	33	社会人栄養士検定1級	③	34	33	実戦動物看護管理士2級	③	35	34	Word検定3級	③	34	32	Excel検定3級	③	33	26	サロントリマー検定3級	③	35	35	サロントリマー検定1級	③	32	32
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																				
ミニカット検定1級	③	34	33																																				
社会人栄養士検定1級	③	34	33																																				
実戦動物看護管理士2級	③	35	34																																				
Word検定3級	③	34	32																																				
Excel検定3級	③	33	26																																				
サロントリマー検定3級	③	35	35																																				
サロントリマー検定1級	③	32	32																																				
中途退学の現状	<p>■中途退学者 8名 令和4年4月1日時点において、在学者75名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31時点において、在学者67名(令和4年3月31日卒業者を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等</p> <p>進路変更(就職希望)、精神的な問題、家庭の事情</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 専門のカウンセラーによるカウンセリング、転科、休学等の提案を行う。</p>			<p>■中退率 8 %</p>																																			
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入</p> <p>成績優秀者に対する入学選考料や入学金、授業料の減免制度 家族、知人などの紹介や同時登録による学費の免除制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>																																						
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																						
当該学科のホームページURL	https://www.wan-c.jp/																																						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ペット美容学科 企業連携については開校以来積極的に推進しており、ミリオンペット、ファミーユ、ワンダフルを中心に講師の派遣、施設を利用した実習などを行っている。教育課程編成委員会の提案により、学生の教養を深めるためにドッグショーの見学、卒業生からの業界説明会なども毎年実施している。また、猫・うさぎの生態や飼育管理を学ぶためうさぎサービスの専門店の代表からの特別講義も実施している。

教育課程編成においては、獣医師会、トリミングサロン、ペットショップ等動物及びペット関連企業から広く意見を収集し、カリキュラムやシラバスの改善、実習内容の精査、人間力指導の向上等に活用し、教育力の向上を図っている。

その成果として、実践に即した即戦力、人間力が養われる環境にある。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会構成員は企業関係者等と当校教員から成るものとし、教育課程編成委員会は教務部の下に置く。委員は動物・ペット関連業界の動向及び学科専門分野に関する知見を有する有識者及び実務に関する知識、技術、技能についての知見を有する企業の役職員を含むものとする。委員会で出た意見はカリキュラム検討会議で審議されたのち、校長の許可を経て決定する。企業・団体と学校が一体となり、互いの意見を十分に活かし、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置づけている。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所 属	任期	種別
古俣 伸子	新潟市動物愛護協会 副会長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	①
江口 亜由美	株式会社ミリオンペット 代表	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
倉田 純子	国際ペットワールド専門学校 教務部長	-	-
山田 佳枝	国際ペットワールド専門学校	-	-

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (12月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年12月15日 11:00～12:00

第2回 令和5年3月28日 15:00～16:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

ペット美容学科は、もっとプロ意識を高める必要があり、そのためには時間の管理、作業の質の管理、動物の管理が不可欠である。そのため、目標を高く設定し、1日に2頭から3頭の犬を仕上げができるようにカリキュラム、指導方法を構成するべきではないか。指導について誰でも同等のレベルが指導できるようにマニュアルが必要であり、情報共有をする場がほしい。犬の脱走を考慮した管理など、基本的なところから指導を考える必要がある。

⇒マニュアルの作成を早急に行う。また教員の指導力向上のための研修を講師に依頼し実施できるよう検討する。実習犬の頭数を増やすこと、実習に入る教員数を増やすことを今後の検討事項とする。

(別途、以下の資料を提出)

* 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程

* 教育課程編成委員会等の規則

* 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-1

* 学校又は法人の組織図

* 教育課程編成委員会等の開催記録

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

常に最新の知識の教授や技術指導が行えるよう、学校と企業が密接に連携した体制を築き、より実践的な職業教育が実現できるよう努める。講義及び実習の両方において、より実践的な専門知識、技術、社会性を身につける、プロとしての職業観を得ることも目的とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本学科と業界・団体等が協定書を締結し、実習前に担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習目標を明確にした上で、実習内容や学生の学修成果の評価方法・評価指標について定める。実習期間中は、学生の実習実施状況や能力習得状況を定期的に把握できるよう相互に情報交換を行う。実習修了時には、目標の達成状況の確認をするとともに、実習講師により学修の成果を評価してもらう。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
人と動物の関係学	現在、国際的に動物愛護がどのように進んでいるのか？日本の現状は？今後取り組んでいく課題は？を学ぶ。	一般社団法人アニマルリテラシー総研
グルーミング実習Ⅰ	グルーミング技術の習得。犬種ごとに安全なグルーミングが出来るようにする。グルーミングにより犬の生理や健康管理、衛生管理を行う。1人1頭の犬をグルーミングを行う。	株式会社ファミーユ
グルーミング実習Ⅱ	グルーミングにより犬の生理や健康管理、衛生管理を行う。1人1頭の犬をグルーミングを行い、サロントリマー検定3級合格（小型犬のグルーミングができる）を目指す。	株式会社ファミーユ
グルーミング実習Ⅲ	グルーミングにより犬の生理や健康管理、衛生管理を行う。1人1頭の犬をグルーミングを行い、サロントリマー検定1級合格（どんな犬種でもペットカットができる）を目指す。	株式会社ファミーユ

(別途、以下の資料を提出)

* 企業等との連携に関する協定書等や講師契約書(本人の同意書及び企業等の承諾書)等

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

全教員は学生指導力の向上のために各自の「教員資質」、「能力」、「専門力」を高めるよう努めなければならない。

校長及び上長は企業等で実施される研修情報を収集すると共に、各教員の経験、スキル、能力を勘案し必要な研修への参加を命ずる。また外部講師を招いた学内研修も計画的に実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ジュエルズドッグ白鳥尋三先生セミナー	連携企業等:	MAGICBOX
期間:	2023年1月19日	対象:	山田、大竹、箕輪
内容	サロンワークについて学ぶ		
研修名:	FCI北陸甲信越インターナショナルドッグショー見学	連携企業等:	ジャパンケンNELクラブ
期間:	2023年6月11日	対象:	山田、平石
内容	ドッグショーとは何か、犬種についても学ぶ		
研修名:	トリマー教員研修会	連携企業等:	MAGICBOX
期間:	2023年5月10日～7月26日毎週水曜日17:30～19:30	対象:	山田、梅本、斎藤、中野
内容	ラムクリップについて学びサロントリマー検定検定員A級合格を目指す		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	関係性が変わり行動が変わる1on1のすすめ	連携企業等:	実践行動学研究所
期間:	2023年7月11日	対象:	倉田、小林、秋元
内容	新しいコミュニケーション手法の導入を学ぶ		
研修名:	今までと何が違う、生徒指導の現場から	連携企業等:	新潟県専門学校協会
期間:	2023年7月13日	対象:	倉田、遠藤
内容	各学校の学生指導の事例発表及び意見交換		
研修名:	アンガーマネジメント研修	連携企業等:	学校法人国際総合学園
期間:	2023年7月26日	対象:	山田、小林
内容	怒りの感情に責任を持ち、どのようにコントロールすればよいかを学ぶ		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	サロントリマー検定検定員試験	連携企業等:	全国動物専門学校協会
期間:	2023年度8月2日	対象:	山田、梅本、斎藤
内容	サロントリマー検定の検定員試験		
研修名:	米国ヘルシースポット バーチャル施設見学	連携企業等:	ライトハウス
期間:	2023年10月23日	対象:	山田、平石、梅本
内容	ロサンゼルスにある美容・トレーニング・グッズ販売のサービスを行っている施設をオンラインで見学し、サービスや運営について学ぶ		
研修名:	トリマー教員研修会	連携企業等:	MAGICBOX
期間:	2023年9月21日～2月1日毎週木曜日17:30～19:30	対象:	山田、梅本、斎藤、中野
内容	ラムクリップについて学びサロントリマー検定検定員A級合格を目指す		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	実践行動学ファシリテーター養成講座	連携企業等:	実践行動学研究所
期間:	2023/8/22～23、2023/8/29～30	対象:	中山、本間、斎藤、野口
内容	学生へ実践行動学を指導できる公認 ファシリテーターとして動機付けや授業技術の手法を学ぶ		
研修名:	トリマー教員研修会	連携企業等:	全国動物専門学校協会
期間:	2023年度8月2日	対象:	山田、梅本、斎藤
内容	ラムクリップの指導について学ぶ		
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

(別途、以下の資料を提出)

- * 研修等に係る諸規程
- * 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績)
- * 研修等の計画(推薦年度における計画)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、専門分野関連企業等及び、卒業生、保護者、近隣住民などから選出した委員で構成する「学校関係者評価委員会」を設置して評価を実施し、評価結果を学校運営全般及び教育活動の改善等に生かす。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか ・社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか ・人事・給与に関する規定等は整備されているか ・業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか ・教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか ・関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修などが行われているか
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	評価項目は設定しない

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

【教育理念・目標】

・学校自己評価に相違なし。

⇒入学後も学校理念や教育目標を学生や保護者へ訴求していきたい。

【学校運営】

・学校自己評価に相違なし。規定等は整備されているが、教員不足・長時間残業により教員の福祉向上が図れているか疑問である。

⇒学生や動物の福祉向上だけをうたう学校ではなく、教員への福祉向上が図れるように取り組んでいきたい。そのためにも教員の確保や施設の修繕・改修を進めていきたい。また、教員が自己啓発や自身の能力開発のための研修参加を積極的に促していきたい。

【教育活動】

・学校自己評価に相違なし。学生数増加により教員の確保が必要となるが校友会を含めてサポートしていきたい。

⇒学生数増加、教育の質を高めるためには教員の確保は絶対必要である。今後も卒業生や業界団体とは密に連絡を取り合い、業界経験者が専門学校で人材育成に取り組むことができるよう道を作っていく検討したい。

【学修成果】

・学校自己評価に相違なし。

⇒オンライン授業や動画配信授業の理解度の確認、実習の復習動画の作成など、オンライン授業化することで学生の理解度の向上と教員の業務負担軽減を促進していきたい。

【学生支援】

・学校自己評価に相違なし。卒業生への支援も校友会ホームページなどで再就職先の告知ができる。

⇒卒業生支援についてはスキルアップセミナーなどがコロナ禍で開催できなかつたため今後はコロナの様子をみつつ開催を検討したい。

【教育環境】

・学校自己評価に相違なし。学生数増加によりHR教室や実習室が手狭になっていると感じる。

⇒教員や学生からも改善希望が挙がっているため中長期的にはなるが校舎修繕・改修を検討している。

【学生の受入れ募集】

・学校自己評価に相違なし。コロナ禍で在籍者数を伸ばしていることは大変良い。

⇒入学相談スタッフが積極的に県内外問わず高校訪問や進路ガイダンスに参加できた。オンラインオープンキャンパスも継続している。教育効果はパンフレットやWebサイトへの掲載によって公開されている。

【財務】

・学校自己評価に相違なし。

⇒今後も健全な財務状況になるべく管理を徹底する。

【法令等の遵守】

・学校自己評価に相違なし。

⇒今後も法令の遵守に努め、新任教職員はコンプライアンス検定受験、全教職員へは研修への参加を必須とする。

【社会貢献・地域貢献】

・学校自己評価に相違なし。夜間動物病院との連携は新潟県内の飼い主に対して大きな貢献をしている。

⇒夜間動物病院との連携(学生の見学やインターンシップも含めて)を強化していきたい。また2022度はアクアリウム学科教員と学生が運営をするWaN水族館を初開催し、地域の小中学生と保護者へアクアリウムの世界の学びを提供した。(説明・観察・体験)

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所 属	任期	種別
小野 智弘	うさぎとあなた オーナー	令和5年4月1日～令和7年3月 31日(2年)	企業等委員
佐藤 大輝	wan on one 代表	令和5年4月1日～令和7年3月 31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.wan-c.jp/wp-content/themes/wan2022/img/pdf/r2_schoolrelationship.pdf

公表時期: 令和4年10月3日

(別途、以下の資料を提出)

* 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2

* 自己評価結果公開資料

* 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

業界・団体との連携による実践的な職業教育を行う本校が、ペット・動物関連企業等との連携および協力の推進に資するため、学校関係者等に対し、学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供し、説明する等理解を得ることに努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・教育理念、教育方針、教育指針・育成する人材像・人間力育成のための指針・所在地、連絡先、校長名・学校の沿革
(2)各学科等の教育	・入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、定員、在学生数・学科概要・進級・卒業の要件・主な資格、検定の実績・学科別取得目標資格、検定
(3)教職員	・教員の専門性、担当科目
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・就職サポートシステム、就職支援の取り組み状況・実践的な実習授業の状況・就職実績
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事・施設設備・ボランティア活動実績・サークル活動
(6)学生の生活支援	・生活支援のための学生寮、アパート紹介制度・シングルライフサポート制度・スクールカウンセラー・通学定期、学割発行・学生総合保障制度、学生割引き特典等
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金額・就学のための経済的支援措置の内容
(8)学校の財務	・独立監査人の監査報告(資金収支書・消費収支書・貸借対照表)
(9)学校評価	・自己評価結果と改善策・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	・海外からの講師招聘の状況・海外研修
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.wan-c.jp/wp-content/themes/wan2022/img/pdf/basicinformation.pdf?170925>

公表時期: 令和4年10月3日

(別途、以下の資料を提出)

* 情報提供している資料

事務担当責任者	フリガナ	クラタ ジュンコ	所属部署	教務部
	氏名	倉田 純子	役職名	部長
	所在地	〒 950-0911 新潟市中央区笹口2-13-4		
	TEL	025-240-8321	FAX	025-240-8931
	E-mail	kurata.junko@nsg.gr.jp		

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 ペット美容学科)										企業等との連携				
分類			授業科目名	授業科目概要			授業方法	場所	教員					
必修	選択必修	自由選択		配当年次・学期	授業時数	単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○		エキゾチックアニマル	現在飼育されている動物は、犬猫だけではないため、生体の特徴、飼育方法を理解する。販売に携わる際には、飼育方法をアドバイスできるようになる。	1前	32	2	○		○			○	
2	○		グルーミング実習Ⅰ	グルーミング技術の習得。犬種ごとに安全なグルーミングが出来るようにする。グルーミングにより犬の生理や健康管理、衛生管理を行う。1人1頭の犬をグルーミングを行う。	1前	192	6			○	○	○	○	○
3	○		グルーミング実習Ⅱ	グルーミング技術の習得。犬種ごとに安全なグルーミングが出来るようにする。グルーミングにより犬の生理や健康管理、衛生管理を行う。1人1頭の犬をグルーミングを行う。	1後	192	6			○	○	○	○	○
4	○		グルーミング理論	グルーミング実習を行う上でのグルーミングの目的、流れ、道具名、使用方法を学ぶ。グルーミングを行う上での注意点を理解する。また、犬種についての知識も学ぶ。	1前	16	1	○			○			○
5	○		トリミング理論	各犬種ごとのペットカットのトリミングスタイルを学ぶ。ペットカットには、決まりがないため、まずはスタンダードを理解する。	1前	16	1	○			○			○
6	○		コミュニケーション実践Ⅰ	対面交流場面における「話す」行為において、相手の状況を正しく理解した上で、自分の意志を目的や場面に応じた適切な表現でわかりやすく示し、効果的に相手に伝えることを学ぶ。コミュニケーション検定初級合格を目指すために、対策授業を行い、合格点に達しない者は補講を行う。	1前	32	2	○			○	○		
7	○		コンピュータ実習	文書入力をある程度の速さで、正確に行えるようにする。Wordの理解を深め、活用できる基本技能を身につける。	1通	64	2			○	○			○
8	○		しつけトレーニング実習	1. 犬のトレーニング実技を行う。 2. 実際の道具やデモンストレーションを見る。 3. テキストやホワイトボードを使用し内容を説明。	1通	64	2			○	○			○
9	○		造形美術	ドッグマネキンをカットすることで、実際のトリミングのイメージをつかむ。また、道具の扱い方の練習を行う。立体のスタイルを作り上げる際に必要な観察力、想像力、形体を構成する力を学ぶ。	1前	32	1			○	○			○
10	○		動物飼育実習	実習前座学：実習前に必要な知識を伝え、なぜ行うのか理由から方法を覚えられるようにする 実習：座学で得た知識を実践する。到達目標を細かく刻み、自信を持ってもらう。掃除においてはインターンシップと基本となる項目。動物を触るだけが、仕事ではないため、率先して動ける人材へ。	1通	64	2			○	○	○	○	
11	○		ビジネスマナー	組織、お客様、取引先などと良好な人間関係を保つつつ、仕事の成果をあげるためにビジネスマナーを身につける。また、9月に受験をする社会人常識マナー検定に向けて、過去問題は宿題で行い、合格点に達しない学生は補講を行い、合格できる準備を整える。	1前	32	2	○			○	○		

12	○		解剖学・生理学	動物の体の基本構造やはたらきをまず理解した上で、各組織での検査や代表的な疾患を把握する	1 後	32	2	○			○	○				
13	○		飼養管理士総論	動物が「命」あるものとし、「人と動物の共生」が必要となっている。そのための動物種の生態、管理や飼育方法について知識を身に付ける。また、動物に関連する法理についても学ぶ。愛玩動物飼養管理2級の合格に向け、授業を行っていく。	1 前	32	2	○			○	○				
14	○		就職実務Ⅰ	毎日の生活を豊かに有意義に過ごすためにも、自分らしい生きがいややりがいを持って働くためにも、働く意義をしっかりと理解した上で就職活動を進めていく。身だしなみセミナー、求職登録面接、就職研修、インターナーシップを通して、翌年（翌々年）の就職活動を意識する。	1 後	32	2	○			○	○				
15	○		人と動物の関係学	現在、国際的に動物愛護がどのように進んでいるのか？日本の現状は？今後取り組んでいく課題は何なのか？を学ぶ。	1 通	48	3	○			○		○	○	○	
16	○		動物関係法規	動物取扱現場及び、公衆衛生、環境関連の動物関連の法規について理解を深め、動物福祉と安全な社会づくりに貢献する専門職として順守の精神を養う。愛玩動物飼養管理士2級合格へ向けて、検定出題範囲の関連法について理解を深める。	1 前	32	2	○			○	○				
17	○		動物看護概論	動物病院での診療補助を学ぶ	1 後	32	1				○	○				
18	○		グルーミング実習Ⅲ	グルーミング技術の習得。犬種ごとに安全なグルーミングが出来るようにする。グルーミングにより犬の生理や健康管理、衛生管理を行う。1人1頭の犬をグルーミングを行う。	2 前	288	9				○	○	○	○	○	
19	○		グルーミング実習Ⅳ	グルーミング技術の習得。犬種ごとに安全なグルーミングが出来るようにする。グルーミングにより犬の生理や健康管理、衛生管理を行う。1人1頭の犬をグルーミングを行う。	2 後	288	9				○	○	○	○	○	
20	○		コミュニケーション実践Ⅱ	1年次に勉強したビジネスマナーを復習し、社会人になる準備を始める。	2 前	16	1	○			○	○				
21	○		就職実務Ⅱ	毎日の生活を豊かに有意義に過ごすためにも、自分らしい生きがいややりがいを持って働くためにも、働く意義をしっかりと理解した上で就職活動を進めていく。	2 前	16	1	○			○	○				
22	○		異文化研究	異国の文化（言語、気候、風習、歴史など）を研究することで日本との違いなどを考察する。また、実際に海外に行き異国の文化に触ることで理解する。	2 後	8	1	○			○	○				
23	○		公衆衛生学	各種微生物の基礎知識の習得、及び消毒・滅菌について理解をし、感染症についての知識を身につける。	2 前	32	2	○			○		○			
24	○		ペットフード概論	動物の健康維持に必要な栄養素を学び、その基礎知識を活用して各論の学習に進む準備のため、まずはイヌとネコの六大栄養素についての知識を、動物の生理学に立脚した栄養学を総論として学び、様々なペットフードやパンフレットに記載されている専門用語を理解し、飼い主に適切な栄養相談および指導を行う際の基礎知識を習得する。	2	32	2	○			○	○				

25	○		動物看護実習	1年生で履修している動物看護実践Ⅰから引き続き、より実践的に検査実習なども盛り込み、看護技術のレベルアップを図る。	2	32	2	○			○	○	
26	○		AAA総論	AAA、AATについて理解をすることを目的に、訪問活動に必要な様々な技術を実践形式で行い、日々の生活でも活用できるよう身に付ける。	2 後	16	1	○			○	○	
27	○		ハーブ実習	働きや使い方など基礎知識を学び、ハーブをペットとの生活に取り入れる方法を学ぶ。	2 後	16	1	○			○	○	
28	○		ドッグアロマセラピー実習	アロマセラピーとは、アロマ（芳香）とセラピー（療法）をあわせた言葉で、動物が本来持っている自然治癒力を高める働きをする。芳香植物から抽出した100%天然のエッセンシャルオイル（精油）には、種類により生体に作用を及ぼす様々な成分が含まれているので、これらを使用して身体や心の健康作りに活かそう、という自然療法の一種である。同時に良い香りに囲まれて楽しみながら学べるのも魅力の一つである。	2 後	32	1	○			○	○	
29	○		ハンドメイド実習	近年、愛犬と一緒におしゃれを楽しむ飼い主様が増えてきている。その為にパーソナルカラーを学び、飼い主様へのアドバイトができるようになる。また、自分で洋服の制作を行い、服への理解を深める。	2 前	32	2				○	○	○

29科目 1,752単位時間(71単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
年間総授業時限数の90%以上を出席科目の評価が全て「C」以上学校指定の検定を2つ以上合格授業料、その他の納入金を完納、または、所定の手続きを終える	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																											
国際ペットワールド専門学校	平成12年1月7日	校長 田中 和志 (住所) 新潟市中央区笹口2-13-4 (電話) 025-240-8321	〒 950-0911																																											
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																											
学校法人国際総合学園	昭和32年10月10日	理事長 池田 祥護 (住所) 新潟市中央区古町通2-541 (電話) 025-210-8565	〒 951-8063																																											
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																																										
文化・教養	文化・教養専門課程	動物看護師・美容学科	平成22年文部科学省告示 第三十号	-																																										
学科の目的	企業その他関係機関との連携の下、ペット、動物関連分野の職業人として必要な実務に関する知識や技能及び実践的かつ専門的な能力を習得し、動物看護師、ペット栄養管理士、ペット美容(グルーマー、トリマー)、またはその他動物やペット関連分野の職業人として、地域社会、関連産業界、国家、国際社会の発展に寄与する人材を育成する。																																													
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は単位 数	講義	演習	実習	実験																																								
3 年	昼間	3100	1848	0	1512	0																																								
						時間																																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																									
90	111	0人	7人	13人	20人																																									
学期制度	■前期:4月1日～9月18日 ■後期:9月19日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: S(100～85), A(84～80), B(79～70), C(69～60), D(59以下) 評価の方法: 期末試験を実施																																									
長期休み	■夏期休業:7月29日～8月20日 ■冬期休業:12月23日～1月8日			卒業・進級条件	卒業要件: 年間同授業時限の90%以上を出席、科目の評価が全て「C」以上、学校指定の検定を二つ以上合格、授業料、その他の納入金を感應、又は、所定の手続きを終える 進級要件: 年間同授業時限の90%以上を出席、科目の評価が全て「C」以上、授業料、その他の納入金を感應、又は、所定の手続きを終える																																									
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 クラス担任、課長、教務部長、その他教務と連携して、相談対応を行なっている。必要に応じ、カウンセラーを導入している。			課外活動	■課外活動の種類 (例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 スポーツサークル、ゲームサークルを週1回実施。学外ボランティアへの参加。オープンキャンパス・運動会・学園祭実行委員等。 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)																																									
就職等の状況	■就職先、業界等(令和3年度卒業生) 動物病院、ペットショップ、ペットサービス企業 ■就職指導内容 目指す業界の現状やニーズ、内容を説明する。個々の進路選択についてアドバイスを行う。応募書類作成、面接、インターンシップについての指導や手配を行う。 ■卒業者数 21 人 ■就職希望者数 20 人 ■就職者数 20 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 95 %			主な学修成果 (資格・検定等)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JAPAN-CPA検定3級</td> <td>③</td> <td>21</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>社会人常識ナード検定3級</td> <td>③</td> <td>21</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>愛犬動物看護師2級</td> <td>③</td> <td>21</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>Word検定3級</td> <td>③</td> <td>21</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>Excel検定3級</td> <td>③</td> <td>21</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>認定動物看護師</td> <td>③</td> <td>21</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>ペット栄養管理士</td> <td>③</td> <td>21</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>クロトリマー検定3級</td> <td>③</td> <td>21</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>委託動物看護師</td> <td>②</td> <td>21</td> <td>20</td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> <p>■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等</p>		資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	JAPAN-CPA検定3級	③	21	21	社会人常識ナード検定3級	③	21	19	愛犬動物看護師2級	③	21	21	Word検定3級	③	21	21	Excel検定3級	③	21	21	認定動物看護師	③	21	21	ペット栄養管理士	③	21	21	クロトリマー検定3級	③	21	21	委託動物看護師	②	21	20
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																											
JAPAN-CPA検定3級	③	21	21																																											
社会人常識ナード検定3級	③	21	19																																											
愛犬動物看護師2級	③	21	21																																											
Word検定3級	③	21	21																																											
Excel検定3級	③	21	21																																											
認定動物看護師	③	21	21																																											
ペット栄養管理士	③	21	21																																											
クロトリマー検定3級	③	21	21																																											
委託動物看護師	②	21	20																																											
中途退学の現状	■中途退学者 1 名 ■中退率 1 %			令和4年4月1日時点において、在学者98名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者96名(令和5年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 進路の変更(就職希望)、健康上の問題 ■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 専門のカウンセラーによるカウンセリング、転科、休学等の提案を行う。																																										
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 成績優秀者に対する入学選考料や入学金、授業料の減免制度 家族、知人などの紹介や同時在籍による学費の免除制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																													
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL																																													
当該学科のホームページURL	https://www.wan-c.jp/																																													

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

動物看護師・美容学科 企業連携については開校以来積極的に推進しており、新潟県獣医師会からの講師の派遣、施設を利用した実習などを行っており、トリミング分野でもペットグルーミング＆コンフォーツ、ドッグサロンワンダフルから講師の派遣を行い、看護と美容分野において学生の知識と技術の向上を積極的に行っている。また夜間動物病院とも連携をし、インターンシップ生の受入を行っている。

教育課程編成においては、獣医師会、動物病院、トリミングサロン等動物及びペット関連企業から広く意見を徴収し、カリキュラムやシラバスの改善、実習内容の精査、人間力指導の向上等に活用し、教育力の向上を図っている。
その成果として、実践に即した即戦力、人間力が養われる環境にある。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会構成員は企業関係者等と当校教員から成るものとし、教育課程編成委員会は教務部の下に置く。委員は動物・ペット関連業界の動向及び学科専門分野に関する知見を有する有識者及び実務に関する知識、技術、技能についての知見を有する企業の役職員を含むものとする。委員会で出た意見はカリキュラム検討会議で審議されたのち、校長の許可を経て決定する。企業・団体と学校が一体となり、互いの意見を十分に活かし、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置づけている。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 博	公益社団法人新潟県獣医師会 会長理事	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
高地 毅	合同会社 動物夜間急患センター新潟 代表	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
倉田 純子	国際ペットワールド専門学校 教務部長	-	-
秋元 彩子	国際ペットワールド専門学校	-	-

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (12月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年12月15日 11:00～12:00

第2回 令和5年3月28日 15:00～16:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

夜間動物病院と連携をし、インターンシップや見学をさせてみたらどうか。職業について考えさせる業界見学やな講演会なども必要である。⇒実施。

愛玩動物看護師カリキュラムに沿って、採血などの練習ができる実習用備品を揃えた方が良い。実習へ行った際に「学校でやったことがある、見たことがある」と言えるか言えないかでは印象が違う。⇒実施。

トリミング技術の向上をしてもらえると病院も助かる。⇒次年度以降のカリキュラムで検定目標を上げるなど検討する。

(別途、以下の資料を提出)

* 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程

* 教育課程編成委員会等の規則

* 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-1

* 学校又は法人の組織図

* 教育課程編成委員会等の開催記録

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

常に最新の知識の教授や技術指導が行えるよう、学校と企業が密接に連携した体制を築き、より実践的な職業教育が実現できるよう努める。講義及び実習の両方において、より実践的な専門知識、技術、社会性を身につける、プロとしての職業観を得ることも目的とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本学科と業界・団体等が協定書を締結し、実習前に担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習目標を明確にした上で、実習内容や学生の学修成果の評価方法・評価指標について定める。実習期間中は、学生の実習実施状況や能力習得状況を定期的に把握できるよう相互に情報交換を行う。実習修了時には、目標の達成状況の確認をするとともに、実習講師により学修の成果を評価してもらう。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
生命倫理・動物福祉	現在、国際的に動物愛護がどのように進んでいるのか？日本の現状は？今後取り組んでいく課題は何なのか？を学ぶ。	一般社団法人アニマルリテラシー総研

(別途、以下の資料を提出)

* 企業等との連携に関する協定書等や講師契約書(本人の同意書及び企業等の承諾書)等

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

全教員は学生指導力の向上のために各自の「教員資質」、「能力」、「専門力」を高めるよう努めなければならない。

校長及び上長は企業等で実施される研修情報を収集すると共に、各教員の経験、スキル、能力を勘案し必要な研修への参加を命ずる。また外部講師を招いた学内研修も計画的に実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	愛玩動物看護師指定講習会	連携企業等:	動物看護師統一認定機構
------	--------------	--------	-------------

期間:	2023年5月2日～8月31日	対象:	稲川
-----	-----------------	-----	----

内容	愛玩動物看護師の職責、獣医療及び愛護適正飼育分野の関係法規、診療の補助に関する技能、愛護・適性飼養に関する基本的な知識
----	---

研修名:	トリマー教員研修会	連携企業等:	MAGICBOX
------	-----------	--------	----------

期間:	2023年5月10日～7月26日毎週水曜日17:30～19:30	対象:	山田、梅本、斎藤、中野
-----	----------------------------------	-----	-------------

内容	ラムクリップについて学びサロントリマー検定検定員A級を目指す
----	--------------------------------

研修名:	わんこを育む食の授業	連携企業等:	あじな動物病院
------	------------	--------	---------

期間:	2023年3月31日～6月11日	対象:	稲川
-----	------------------	-----	----

内容	手作りご飯と生食を学ぶ
----	-------------

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	関係性が変わり行動が変わる1on1のすすめ	連携企業等:	実践行動学研究所
------	-----------------------	--------	----------

期間:	2023年7月11日	対象:	倉田、小林、秋元
-----	------------	-----	----------

内容	新しいコミュニケーション手法の導入を学ぶ
----	----------------------

研修名:	今までと何が違う、生徒指導の現場から	連携企業等:	新潟県専門学校協会
------	--------------------	--------	-----------

期間:	2023年7月13日	対象:	倉田、遠藤
-----	------------	-----	-------

内容	各学校の学生指導の事例発表及び意見交換
----	---------------------

研修名:	アンガーマネジメント研修	連携企業等:	学校法人国際総合学園
------	--------------	--------	------------

期間:	2023年7月26日	対象:	遠藤、佐山、秋元、佐藤
-----	------------	-----	-------------

内容	怒りの感情に責任を持ち、どのようにコントロールすればよいかを学ぶ
----	----------------------------------

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ヒルズフードアドバイザープログラム アドバンスドコース	連携企業等:	日本ヒルズ・コレクター株式会社 ヒルズフードアドバイザープログラム事務局
期間:	2023年度8月10日～9月15日	対象:	稻川
内容	ペット栄養及びフードについて学ぶ		
研修名:	トリマー教員研修会	連携企業等:	MAGICBOX
期間:	2023年9月21日～2月1日毎週木曜日17:30～19:30	対象:	山田、梅本、斎藤、中野
内容	ラムクリップについて学びサロントリマー検定検定員A級を目指す		
研修名:	災害ボランティア研修～ケーススタディ編～	連携企業等:	日本財団ボランティアセンター
期間:	2023年9月26日	対象:	佐山
内容	悲惨地の実態から学ぶ避難生活・避難所運営		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	実践行動学ファシリテーター養成講座	連携企業等:	実践行動学研究所
期間:	2023/8/22～23、2023/8/29～30	対象:	中山、本間、斎藤、野口
内容	学生へ実践行動学を指導できる公認 ファシリテーターとして動機付けや授業技術の手法を学ぶ		
研修名:	トリマー教員研修会	連携企業等:	全国動物専門学校協会
期間:	2023年度8月2日	対象:	山田、梅本、斎藤
内容	ラムクリップの指導について学ぶ		
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

(別途、以下の資料を提出)

- * 研修等に係る諸規程
- * 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績)
- * 研修等の計画(推薦年度における計画)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、専門分野関連企業等及び、卒業生、保護者、近隣住民などから選出した委員で構成する「学校関係者評価委員会」を設置して評価を実施し、評価結果を学校運営全般及び教育活動の改善等に生かす。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか ・社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか ・人事・給与に関する規定等は整備されているか ・業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか ・教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか ・関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修などが行われているか
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	評価項目は設定しない

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

・自己採点に基づき下記の項目について意見聴取を行い、学校運営の改善を図る。

【教育理念・目標】

・学校自己評価に相違なし。

⇒入学後も学校理念や教育目標を学生や保護者へ訴求していきたい。

【学校運営】

・学校自己評価に相違なし。規定等は整備されているが、教員不足・長時間残業により教員の福祉向上が図れているか疑問である。

⇒学生や動物の福祉向上だけをうたう学校ではなく、教員への福祉向上が図れるように取り組んでいきたい。そのためにも教員の確保や施設の修繕・改修を進めていきたい。また、教員が自己啓発や自身の能力開発のための研修参加を積極的に促していきたい。

【教育活動】

・学校自己評価に相違なし。学生数増加により教員の確保が必要となるが校友会を含めてサポートしていきたい。

⇒学生数増加、教育の質を高めるためには教員の確保は絶対必要である。今後も卒業生や業界団体とは密に連絡を取り合い、業界経験者が専門学校で人材育成に取り組むことができるよう道を作っていく検討したい。

【学修成果】

・学校自己評価に相違なし。

⇒オンライン授業や動画配信授業の理解度の確認、実習の復習動画の作成など、オンライン授業化することで学生の理解度の向上と教員の業務負担軽減を促していきたい。

【学生支援】

・学校自己評価に相違なし。卒業生への支援も校友会ホームページなどで再就職先の告知ができる。

⇒卒業生支援についてはスキルアップセミナーなどがコロナ禍で開催できなかったため今後はコロナの様子をみつつ開催を検討したい。

【教育環境】

・学校自己評価に相違なし。学生数増加によりHR教室や実習室が手狭になっていると感じる。

⇒教員や学生からも改善希望が挙がっているため中長期的にはなるが校舎修繕・改修を検討している。

【学生の受入れ募集】

・学校自己評価に相違なし。コロナ禍で在籍者数を伸ばしていることは大変良い。

⇒入学相談スタッフが積極的に県内外問わず高校訪問や進路ガイダンスに参加できた。オンラインオープンキャンパスも継続している。教育効果はパンフレットやWebサイトへの掲載によって公開されている。

【財務】

・学校自己評価に相違なし。

⇒今後も健全な財務状況になるべく管理を徹底する。

【法令等の遵守】

・学校自己評価に相違なし。

⇒今後も法令の遵守に努め、新任教職員はコンプライアンス検定受験、全教職員へは研修への参加を必須とする。

【社会貢献・地域貢献】

・学校自己評価に相違なし。夜間動物病院との連携は新潟県内の飼い主に対して大きな貢献をしている。

⇒夜間動物病院との連携(学生の見学やインターンシップも含めて)を強化していきたい。また2022度はアクアリム学科教員と学生が運営をするWaN水族館を初開催し、地域の小中学生と保護者へアクアリウムの世界の学びを提供した。(説明・観察・体験)

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所 属	任期	種別
小野 智弘	うさぎとあなた オーナー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
佐藤 大輝	wan on one 代表	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.wan-c.jp/wp-content/themes/wan2022/img/pdf/r2_schoolrelationship.pdf

公表時期: 令和4年10月3日

(別途、以下の資料を提出)

* 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2

* 自己評価結果公開資料

* 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

業界・団体との連携による実践的な職業教育を行う本校が、ペット・動物関連企業等との連携および協力の推進に資するため、学校関係者等に対し、学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供し、説明する等理解を得ることに努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・教育理念、教育方針、教育指針・育成する人材像・人間力育成のための指針・所在地、連絡先、校長名・学校の沿革
(2)各学科等の教育	・入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、定員、在学生数・学科概要・進級・卒業の要件・主な資格、検定の実績・学科別取得目標資格、検定
(3)教職員	・教員の専門性、担当科目
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・就職サポートシステム、就職支援の取り組み状況・実践的な実習授業の状況・就職実績
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事・施設設備・ボランティア活動実績・サークル活動
(6)学生の生活支援	・生活支援のための学生寮、アパート紹介制度・シングルライフサポート制度・スクールカウンセラー・通学定期、学割発行・学生総合保障制度、学生割引き特典等
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金額・就学のための経済的支援措置の内容
(8)学校の財務	・独立監査人の監査報告(資金収支書・消費収支書・貸借対照表)
(9)学校評価	・自己評価結果と改善策・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	・海外からの講師招聘の状況・海外研修
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.wan-c.jp/wp-content/themes/wan2022/img/pdf/basicinformation.pdf?170925>

公表時期: 令和4年10月3日

(別途、以下の資料を提出)

* 情報提供している資料

事務担当責任者	フリガナ	クラタ ジュンコ	所属部署	教務部
	氏名	倉田 純子	役職名	部長
	所在地	〒 950-0911 新潟市中央区笹口2-13-4		
	TEL	025-240-8321	FAX	025-240-8931
	E-mail	kurata.junko@nsg.gr.jp		

授業科目等の概要

	(文化・教養専門課程 動物看護師・美容学科)				授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法		場所		教員		企業等との連携
	分類	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任
1	○				動物形態機能学	動物の生命維持の仕組みを形態学・機能学・生化学の面から学び生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各段階で理解するとともに病的変化について学ぶ基礎を確立する。	1通	128	8	○			○		○
2	○				動物看護学概論	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。	1後	32	2	○				○	
3	○				動物内科看護学Ⅰ	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて理解する。	1通	64	4	○			○	○	
4	○				動物外科看護学Ⅰ	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を習得する	1後	32	2	○			○	○	
5	○				動物感染症学Ⅰ	微生物の分類や生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、感染症対策の基礎を修得する。感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。	1通	64	4	○			○	○	
6	○				動物栄養学Ⅰ	動物の健康維持に必要な栄養素を学び、その基礎知識を活用して各論の学習に進む準備のため、まずはイヌとネコの六大栄養素についての知識を、動物の生理学に立脚した栄養学を総論として学び、様々なペットフードやパンフレットに記載されている専門用語を理解し、飼い主に適切な栄養相談および指導を行う際の基礎知識を習得する。	1後	32	2	○			○	○	
7	○				動物愛護・適正飼養関連法規	獣医療現場及び、公衆衛生、環境関連の動物関連の法規について理解を深め、動物福祉と安全な社会づくりに貢献する専門職として順守の精神を養う。また、2009年に日本動物看護職協会が公表した「動物看護者の倫理要項2009」と「動物看護者の業務指針」(2012)についても学ぶ。	1後	16	1	○			○	○	
8	○				人と動物の関係学	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係と心理学的および社会学的側面から理解する	1前	32	2	○			○		○
9	○				動物行動学	犬や猫の行動様式の特徴を様々な視点から学び、犬や猫の本質などを理解させる。テキストとパワーポイントを使用しながら授業を進めていく。	1前	32	2	○			○	○	
10	○				しつけトレーニング実習	1. 犬のトレーニング実技を行う。 2. 実際の道具やデモンストレーションを見る。 3. テキストやホワイトボードを使用し内容を説明。	1通	64	2	○			○		○

11	○		生命倫理・動物福祉	現在、国際的に動物愛護がどのように進んでいるのか？日本の現状は？今後取り組んでいく課題は何か？を学ぶ。	1 通	64	4	○			○		○	○
12	○		愛玩動物学	伴侶動物の歴史や品種、飼育管理方法及びエキゾチックアニマルの生態について学ぶ。	1 通	64	4	○			○		○	
13	○		動物臨床検査学	動物臨床検査実習にて習得する、実際の手技に反映できる技術を備えるようにする。検体検査においては、尿検査・糞便検査・血液検査その他細胞診検査・微生物学的検査の目的・方法・検体の扱い方・正常値・異常値を理解す。特殊検査の目的・方法・検査機器の正しい扱い方・正常値・異常値を学習する。	1 前	32	2	○			○		○	
14	○		グルーミング理論	グルーミング実習を行う上でグルーミングの目的・流れ、道具名とその使用方法を学ぶ。また、犬種についての知識も学ぶ。	1 前	16	1	○			○		○	
15	○		コミュニケーション実践Ⅰ	対面交流場面における「話す」行為において、相手の状況を正しく理解した上で、自分の意志を目的や場面に応じた適切な表現でわかりやすく示し、効果的に相手に伝えることを学ぶ。	1 前	32	2	○			○		○	
16	○		ビジネスマナー	組織、お客様、取引先などと良好な人間関係を保つつゝ、仕事の成果をあげるためにビジネスマナーを身につける。また、9月に受験をする社会人常識マナー検定に向けて、過去問題は宿題で行い、合格点に達しない学生は補講を行い、合格できる準備を整える	1 前	32	2	○			○		○	
17	○		就職実務Ⅰ	毎日の生活を豊かに有意義に過ごすためにも、自分らしい生きがいややりがいを持って働くためにも、働く意義をしっかりと理解した上で就職活動を進めていく。身だしなみセミナー、求職登録面接、就職研修、インターンシップを通して、翌年（翌々年）の就職活動を意識する。	1 後	16	1	○			○		○	
18	○		PC実習Ⅰ	文書入力をある程度の速さで、正確に行えるようにする。Wordの理解を深め、活用できる基本技能を身につける。	1 通	64	2				○	○		○
19	○		動物愛護・適正飼養実習ⅠA	実習前座学：実習前に必要な知識を伝え、なぜ行うのか理由から方法を覚えられるようにする 実習：座学で得た知識を実践する。到達目標を細かく刻み、自信を持ってもらう。掃除においてはインターンシップと基本となる項目。動物を触るだけが、仕事ではないため、率先して動ける人材へ。	1 通	64	2				○	○	○	
20	○		動物内科看護学実習Ⅰ	犬や猫の日常的な健康管理や内科療法の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。	1 通	64	2				○	○	○	
21	○		動物愛護・適正飼養実習ⅠB	グルーミングの目的・効果及び、動物看護におけるグルーミングの重要性について学ぶ。体表や被毛の部位・毛色など、グルーミングに際し必要な専門用語について学ぶ。被毛や皮膚の管理の実践（ブラッシング、シャンプー）	1 後	32	1				○	○	○	

22	○		動物臨床検査学 実習 I	検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。	1 後	32	1			○	○	○	
23	○		動物外科看護学 実習 I	周術期の術前・術中・術後において、動物看護師の役割である外科手術を補助するために必要な外科看護技術を修得する。看護動物が安全に麻酔（手術）を遂行するためには、術前の準備として看護動物の術前評価及び状態把握の目的・意義を理解することが重要である。また、麻酔（手術）が円滑に行われるためには、日頃からの手術器具、機材の管理が必要となり、術中の補助では麻酔下の看護動物がどのような状態にあるのかを考え、麻酔モニターを使用し管理を行う。	1 後	32	1			○	○	○	
24	○		動物看護総合実習 I	修学した知識と技術が実際の動物医療現場でどのように活かされているのか動物病院で体験・実習する。動物病院の施設構造・機能を理解し看護が行われている場の環境を理解することで、獣医療現場での臨床経験から看護動物や飼い主への配慮を含むより実践的な看護と専門知識および倫理感を習得する。	1 後	90	3			○	○	○	
25	○		動物形態機能学 実習	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。動物を生命体として細胞、組織、臓器レベルの各階層での知識は動物形態機能学で修得しながら、犬の体に触れたとき、今、自分が触れているところには何があるのかが立体的にわかるようになる。犬や猫の体を構成する骨、筋、内臓器の位置と相関関係が立体的に理解できる。	2 前	32	1			○	○	○	
26	○		動物薬理学 I	薬は獣医師の処方により調剤するが、その薬理作用および副作用などを動物看護師が確認し、知識を有することは、カルテに記載された内容を正しく理解し、作用と症状の変化を予測する上で重要である。さらに動物は、種による体重の違いも大きく、生理的代謝の特異性による投与禁忌などがあるので確認が必要となるので、薬物の取扱いと保存方法を習得し、正確な薬用量計算ができなければならない。	2 後	32	2	○			○	○	
27	○		ペット関連産業 概論	ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼養のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。	2 前	32	2	○			○	○	
28	○		動物栄養学 II	栄養学的管理が疾患の治療と健康の維持に大きく関連する疾病について各論として学ぶ。獣医師によって予後診断された中で、動物看護師が栄養学的な管理に関わられる疾患について学び、課程での最適な管理を飼い主に指導できる知識を習得する。	2 前	32	2	○			○	○	
29	○		動物繁殖学	繁殖は動物が存続する上で欠かせないものであり、雌雄がそれぞれ成長して生殖能力を有し受精により新たな個体（生命）が誕生する神秘的な営みである。本科目では主にイヌやネコの雌雄の生殖器の構造と機能、性行動及び発情・交尾・妊娠・分娩の過程を学ぶ。の雌雄の生殖器の構造と機能、性行動及び発情・交尾・妊娠・分娩の過程を学ぶ。さらに正常な分娩の前兆、生理的変化と異常分娩時における助産について学習する。	2 後	32	2	○			○	○	
30	○		動物病理学	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する	2 後	32	2	○			○	○	
31	○		動物臨床看護学 総論	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護師の基本的な考え方を修得する。	2 後	32	2	○			○	○	

32	○		動物臨床看護学各論Ⅰ	チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について学習する。また、治療方針の理解度を高め、疾病別の動物看護に活かすために必要な疾病について学ぶ。	2 通	64	4	○			○	○		
33	○		動物内科看護学実習Ⅱ	犬や猫の日常的な健康管理や内科療法の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。1年次で習得した技術を実践する。	2 通	64	2			○	○	○		
34	○		動物臨床検査学実習Ⅱ	「動物臨床検査学実習Ⅰ」で習得した手技に応用力を付けて正確性、迅速性を身につける。検査の意義を理解し、手順書を見ないでも一人で責任を持った検査結果を出せるよう繰り返し実習し、また、検査結果の意味と関連性臓器について考察できるようになる。常に検査結果を準値と比べ、異常値の場合は速やかに獣医師に報告できるよう一連の流れを習得する。スタッフの安全と院内感染防止にも配慮し、検査後の看護動物の容態観察も習得する。	2 前	32	1			○	○	○		
35	○		動物外科看護学実習Ⅱ	看護動物が安全に麻酔（手術）を遂行するためには、術前の準備として看護動物の術前評価及び状態把握の目的・意義を理解することが重要である。また、麻酔（手術）が円滑に行われるためには日頃からの手術器具、機材の管理が必要となる。	2 通	64	2			○	○	○		
36	○		動物看護総合実習Ⅱ	修正した知識と技術が実際の動物医療現場でどのように活かされているのか動物病院で体験・実習する。動物病院の施設構造・機能を理解し看護が行われている場の環境を理解することで、獣医療現場での臨床経験から看護動物や飼い主への配慮を含むより実践的な看護と専門知識および倫理感を習得する	2 通	45	2			○	○	○	○	
37	○		就職実務Ⅱ	毎日の生活を豊かに有意義に過ごすためにも、自分らしい生きがいややりがいを持って働くためにも、働く意義をしっかりと理解した上で就職活動を進めていく。	2 後	32	2	○			○	○		
38	○		ペット栄養管理士対策	基礎栄養学をより深く掘り下げる、6大栄養素と消化生理について、生化学を学ぶ。疾病的病態生理や要求栄養素の違いを理解し、特別療法食による食事指導ができるペット栄養管理士を目指す。また、法律、ペットフードの原料や添加物について理解し、ペットフードの輸入・製造・販売業者に必要な知識を習得する	2 通	88	6	○			○	○		
39	○		コミュニケーション実践Ⅱ	毎日の生活を豊かに有意義に過ごすためにも、自分らしい生きがいややりがいを持って働くためにも、働く意義をしっかりと理解した上で就職活動を進めていく。求職登録面接、就職研修、インターンシップを通して、翌年の就職活動を意識する。	2 前	32	2	○			○	○		
40	○		トリミング理論	各犬種ごとのペットカットのトリミングスタイルを学ぶ。ペットカットには、決まりがないため、まずはスタンダードを理解する。	2 前	16	1	○			○		○	
41	○		グルーミング実習Ⅰ	グルーミング技術の習得。犬種ごとに安全なグルーミングが出来るようにする。グルーミングにより犬の生理や健康管理、衛生管理を行う。	2 後	96	3			○	○	○		
42	○		比較動物学	飼養動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼養管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ。	2 通	64	4	○			○		○	
43	○		動物内科看護学Ⅱ	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて理解する。	2 前	32	2	○			○	○		

44	○		動物外科看護学Ⅱ	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を習得する	2 前	32	2	○			○	○		
45	○		動物愛護・適正飼養実習Ⅱ	1、動物種ごとの適切な食事や環境を提供できるようになる 2、犬の飼育に必要な接し方・ハンドリング・ケア方法を実践できるようになる 3、猫・小動物の飼育に必要な接し方・ケアの方法を実践できるようになる	2 通	64	2				○	○	○	
46	○		動物感染症学Ⅱ	寄生虫の分類、生物学的特徴、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。	2 前	32	2	○			○		○	
47	○		動物愛護・適正飼養実習Ⅲ	1、個体別ごとに適切な食事や環境を提供できるようになる 2、個体別に合わせたの犬の飼育に必要な接し方・ハンドリング・ケア方法を実践できるようになる 3、個体別に合わせた猫・小動物の飼育に必要な接し方・ケアの方法を学び、行えるようになる	3 通	32	1				○	○	○	
48	○		グルーミング実習Ⅱ	グルーミング技術の習得。犬種ごとに安全なグルーミングが出来るようにする。グルーミングにより犬の生理や健康管理、衛生管理を行う。1人1頭の犬をグルーミングを行う。	3 前	256	9				○	○	○	
49	○		国家試験対策	1年、2年で履修した内容の復習。 過去問題集の実施による試験傾向の把握。	3 通	192	12	○			○	○		
50	○		就職実務Ⅲ	毎日の生活を豊かに有意義に過ごすためにも、自分らしい生きがいややりがいを持って働くためにも、働く意義をしっかりと理解した上で就職活動を進めていく。	3 前	32	2	○			○	○		
51	○		造形美術	ドッグマネキンをカットすることで、実際のトリミングのイメージをつかむ。また、道具の扱い方の練習を行う。立体のスタイルを作り上げる際に必要な観察力、想像力、形体を構成する力を学ぶ。	3 後	16	1				○	○		○
52	○		動物臨床看護学実習	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	3 通	64	2				○	○	○	
53	○		適正飼養指導論	愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。	3 前	64	4	○			○	○		
54	○		動物生活環境学	動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼養環境の整備、ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、ドッグラン、保護収容施設、ペットの教育・訓練施設及び動物介在教育施設の整備・管理の方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学び、人とペットとの共生のための生活環境のあり方を理解する。	3 後	32	2	○			○	○		
55	○		動物医療コミュニケーション	事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について理解する。	3 後	32	2	○			○	○		

56	○		動物臨床看護学各論Ⅱ	チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について学習する。また、治療方針の理解度を高め、疾病別の動物看護に活かすために必要な疾病について学ぶ	3 通	64	4	○			○	○	
57	○		動物看護総合実習Ⅲ	修学した知識と技術が実際の動物医療現場でどのように活かされているのか動物病院で体験・実習する。動物病院の施設構造・機能を理解し看護が行われている場の環境を理解することで、獣医療現場での臨床経験から看護動物や飼い主への配慮を含むより実践的な看護と専門知識および倫理感を習得する。	3 通	45	2			○	○	○	
58	○		動物薬理学Ⅱ	薬は獣医師の処方により調剤するが、その薬理作用および副作用などを動物看護師が確認し、知識を有することは、カルテに記載された内容を正しく理解し、作用と症状の変化を予測する上で重要である。さらに動物は、種による体重の違いも大きく、生理的代謝の特異性による投与禁忌などがあるので確認が必要となるので、薬物の取扱いと保存方法を習得し、正確な薬用量計算ができなければならない。	3 前	32	2	○			○	○	
59	○		動物病院実務	動物内科看護学実習、動物臨床検査学実習、動物外科看護学実習で履修した内容を復習し技術力を身に付ける。	3 前	32	2	○			○	○	
60	○		公衆衛生学	環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する	3 通	64	4	○			○	○	
61	○		ペットフード概論	ペットフードの原材料となる食品の栄養的特性や利用に関する知識、添加物や表示に関する知識を習得する。また、食品栄養成分表の活用実践し、エネルギーと栄養素の算出方を学ぶ。手作り食や試食を実践で学ぶ。	3 前	16	1	○			○	○	

61科目 3,100単位時間(157単位)

1年次1,146時間、2年次981時間、3年次973時間

卒業要件及び履修方法

授業期間等

年間総授業時限数の90%以上を出席科目の評価が全て「C」以上学校指定の検定を2つ以上合格授業料、その他の納入金を完納、または、所定の手続きを終える

1学年の学期区分	2期
1学期の授業期間	16週

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																																														
国際ペットワールド専門学校		平成12年1月7日	校長 田中 和志	〒 950-0911 (住所) 新潟市中央区笹口2-13-4 (電話) 025-240-8321																																														
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																																														
学校法人国際総合学園		昭和32年10月10日	理事長 池田 祐護	〒 951-8063 (住所) 新潟市中央区古町通2-541 (電話) 025-210-8565																																														
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																																													
文化・教養	文化・教養専門課程	水族館・ドルフィン学科		平成22年文部科学省告示 第三十号	-																																													
学科の目的	企業その他の関係機関との連携の下、観賞魚及び水草の飼育、アクアリウムの制作・維持管理など水生生物関連分野における実務に関する知識、技術及び技能を教授し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成し、実践的な職業教育の水準の維持向上を図り、水生生物関連分野で活躍できる職業人を育成し、地域社会、関連産業界、国家、国際社会の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。																																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は単位数	講義	演習	実習	実験																																												
2年	昼間	1744	992	0	752	0																																												
						時間																																												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																													
70	21	0人	2人	18人	20人																																													
学期制度	■前期:4月1日～9月18日 ■後期:9月19日～3月31日			成績評価	<p>■成績表: 有</p> <p>■成績評価の基準・方法 評価の基準: S(100～95)、A(94～80)、B(79～70)、C(69～60)、D(59以下)</p> <p>評価の方法: 期末試験を実施</p>																																													
長期休み	■夏期休業:7月29日～8月20日 ■冬期休業:12月23日～1月8日			卒業・進級条件	<p>卒業要件: 年間同授業時間の90%以上を出席、科目の評価が全て「C」以上、学校指定の検定を二つ以上合格、授業料、その他の納入金を感應、又は、所定の手続きを終える</p> <p>進級要件: 年間同授業時間の90%以上を出席、科目の評価が全て「C」以上、授業料、その他の納入金を感應、又は、所定の手続きを終える</p>																																													
学修支援等	<p>■クラス担任制: 有</p> <p>■個別相談・指導等の対応 クラス担任、課長、教務部長、その他教務と連携して、相談対応を行なっている。必要に応じ、カウンセラーを導入している。</p>			課外活動	<p>■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 スポーツサークル、ゲームサークルを毎回実施。学外ボランティアへの参加、オープンキャンパス・運動会・学園祭実行委員等。</p> <p>■サークル活動: 有</p> <p>■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ピッカラーリ検定初級</td> <td>③</td> <td>37</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>社会人柔道ナーナ検定3級</td> <td>③</td> <td>37</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>Word検定3級</td> <td>③</td> <td>37</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>Excel検定3級</td> <td>③</td> <td>37</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>健常児育管理士</td> <td>③</td> <td>37</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>潜水士(日本資格)</td> <td>③</td> <td>35</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ピッカラーリ検定初級	③	37	37	社会人柔道ナーナ検定3級	③	37	37	Word検定3級	③	37	24	Excel検定3級	③	37	17	健常児育管理士	③	37	37	潜水士(日本資格)	③	35	35																
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																															
ピッカラーリ検定初級	③	37	37																																															
社会人柔道ナーナ検定3級	③	37	37																																															
Word検定3級	③	37	24																																															
Excel検定3級	③	37	17																																															
健常児育管理士	③	37	37																																															
潜水士(日本資格)	③	35	35																																															
就職等の状況	<p>■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 水族館、観賞魚店、ペットショップ</p> <p>■就職指導内容 目標する業界の現状やニーズ、内容を説明する。個々の進路選択についてアドバイスを行う。応募書類作成、面接、インターンシップについての指導や手配を行う。</p> <p>■卒業者数 37 人</p> <p>■就職希望者数 31 人</p> <p>■就職者数 31 人</p> <p>■就職率 100 %</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合 : 84 %</p> <p>■その他</p>			主な学修成果 (資格・検定等)	<p>※種別欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> <p>■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等</p>																																													
中途退学の現状	<p>■中途退学者 0 名 ■中退率 0 %</p> <p>令和4年4月1日時点において、在学者52名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者52名(令和5年3月31日卒業者を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 なし</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 専門のカウンセラーによるカウンセリング、転科、休学等の提案を行う。</p>																																																	
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 成績優秀者に対する入学選考料や入学金、授業料の減免制度 家族、知人などの紹介や同時登録による学費の免除制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>																																																	
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																																	
当該学科のホームページURL	https://www.wan-c.jp/																																																	

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

水族館・ドルフィン学科 企業連携については開校以来積極的に推進しており、新潟市水族館や日本動物園水族館協会、株式会社アクアデザインアマノを中心に講師の派遣、施設を利用した実習などを実施しており、新潟県外より水生生物員やネイチャーガイド、海洋生物ジャーナリストを招き海洋生物や水産資源、自然環境の特別研修(講義及び実習)も行っている。

教育課程編成においては、日本動物園水族館協会、水族館などの関連企業から意見を徴収し、カリキュラムやシラバスの改善、実習内容の精査、人間力指導の向上等に活用し、教育力の向上を図っている。

その成果として、実践に即した即戦力、人間力が養われる環境にある。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会構成員は企業関係者等と当校教員から成るものとし、教育課程編成委員会は教務部の下に置く。委員は動物・ペット関連業界の動向及び学科専門分野に関する知見を有する有識者及び実務に関する知識、技術、技能についての知見を有する企業の役職員を含むものとする。委員会で出た意見はカリキュラム検討会議で審議されたのち、校長の許可を経て決定する。企業・団体と学校が一体となり、互いの意見を十分に活かし、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置づけている。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
鈴木 優明	公益社団法人日本動物園水族館協会 会友	令和5年4月1日～令和7年3月 31日(2年)	①
加藤 治彦	公益社団法人日本動物園水族館協会 会員	令和5年4月1日～令和7年3月 31日(2年)	②
野村 卓之	新潟市水族館 館長	令和5年4月1日～令和7年3月 31日(2年)	③
倉田 純子	国際ペットワールド専門学校 教務部長	-	-
今井 健介	国際ペットワールド専門学校	-	-

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (12月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年12月15日 11:00～12:00

第2回 令和5年3月28日 15:00～16:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

水族館の展示係として働く場合に必要な生物の知識と展示によるプレゼンテーションの力が必要でそのようなカリキュラムが組めるとよいのではないか。

⇒学生と教員で運営をするWaN水族館を10月に実施した。ただ教員が主として運営をしているので今後は学生を主として運営をしていきたいと考えている。また、学生が展示係に必要な生物の知識などを増やせるようにフィールドワークを増やし体験をしながら知識を増やせるようにシラバスの検討をしている。

(別途、以下の資料を提出)

* 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程

* 教育課程編成委員会等の規則

* 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-1

* 学校又は法人の組織図

* 教育課程編成委員会等の開催記録

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 常に最新の知識の教授や技術指導が行えるよう、学校と企業が密接に連携した体制を築き、より実践的な職業教育が実現できるよう努める。講義及び実習の両方において、より実践的な専門知識、技術、社会性を身につける、プロとしての職業観を得ることも目的とする。		
(2) 実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 本学科と業界・団体等が協定書を締結し、実習前に担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習目標を明確にした上で、実習内容や学生の学修成果の評価方法・評価指標について定める。実習期間中は、学生の実習実施状況や能力習得状況を定期的に把握できるよう相互に情報交換を行う。実習修了時には、目標の達成状況の確認をするとともに、実習講師により学修の成果を評価してもらう。		
(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
ネイチャーアクアリウム実践	ネイチャーアクアリウムのデザインを左右する、流木や石の配置方法について、美術的な観点から学ぶ。	(株)アクアデザインアマノ
ネイチャーアクアリウム理論	ネイチャーアクアリウムの原理、作成手法、維持管理の技術、器具の構造や利点などを学ぶ。	(株)アクアデザインアマノ
遺伝・育種学	錦鯉やグッピーの遺伝を始め、観賞魚の色彩や体型の品種改良について学ぶ。	(株)アクアデザインアマノ
養殖・繁殖学	観賞魚の養殖や繁殖の方法について学ぶ。	(株)アクアデザインアマノ
スイムトレーニングⅡ	近隣のプール施設を利用し、泳力レベルに応じてチーム分けを行い学生それぞれがその日の課題に取り組む。	アルススイミングスクール

(別途、以下の資料を提出)

* 企業等との連携に関する協定書等や講師契約書(本人の同意書及び企業等の承諾書)等

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

全教員は学生指導力の向上のために各自の「教員資質」、「能力」、「専門力」を高めるよう努めなければならない。

校長及び上長は企業等で実施される研修情報を収集すると共に、各教員の経験、スキル、能力を勘案し必要な研修への参加を命ずる。また外部講師を招いた学内研修も計画的に実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第3回水族館研究会	連携企業等:	一般社団法人水族館協会
期間:	2023年3月13日14日	対象:	今井
内容	水生生物に関する研究発表会		
研修名:	第10回国際錦鯉幼魚品評会	連携企業等:	全国錦鯉振興会
期間:	2023年4月20日～23日	対象:	今井、富取、澁谷
内容	錦鯉品評会で実際の錦鯉に触れ、業者から錦鯉について学ぶ		
研修名:	第5期通常総会	連携企業等:	一般社団法人水族館協会
期間:	2023年7月6日7日	対象:	今井
内容	海洋生物に関する研究発表会、ワシントン条約国会審議結果について		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	関係性が変わり行動が変わる1on1のすすめ	連携企業等:	実践行動学研究所
期間:	2023年7月11日	対象:	倉田、小林、秋元
内容	新しいコミュニケーション手法の導入を学ぶ		
研修名:	今までと何が違う、生徒指導の現場から	連携企業等:	新潟県専門学校協会
期間:	2023年7月13日	対象:	倉田、遠藤
内容	各学校の学生指導の事例発表及び意見交換		
研修名:	アンガーマネジメント研修	連携企業等:	学校法人国際総合学園
期間:	2023年7月26日	対象:	佐藤、今井、富取、澁谷
内容	怒りの感情に責任を持ち、どのようにコントロールすればよいかを学ぶ		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	米国パシフィック水族館 バーチャル施設見学	連携企業等:	ライトハウス
期間:	2023年10月24日	対象:	濫谷、富取
内容	ロサンゼルスにあるパシフィック水族館をオンラインで見学し、飼育管理・展示方法について学ぶ		
研修名:	カワセミ水族館見学	連携企業等:	カワセミ水族館
期間:	2023年秋予定	対象:	佐藤
内容	淡水の生物を多く展示している水族館を見学して日本海側の水族館との違いを知る。展示方法を学ぶ。		
研修名:	日本水族館協会トレーニングセミナー	連携企業等:	一般社団法人水族館協会
期間:	2023年11月9日10日	対象:	今井
内容	海獣類のトレーニングについての事例発表		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	実践行動学ファシリテーター養成講座	連携企業等:	実践行動学研究所
期間:	2023/8/22~23、2023/8/29~30	対象:	中山、本間、斎藤、野口
内容	学生へ実践行動学を指導できる公認 ファシリテーターとして動機付けや授業技術の手法を学ぶ		
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

(別途、以下の資料を提出)

- * 研修等に係る諸規程
- * 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績)
- * 研修等の計画(推薦年度における計画)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、専門分野関連企業等及び、卒業生、保護者、近隣住民などから選出した委員で構成する「学校関係者評価委員会」を設置して評価を実施し、評価結果を学校運営全般及び教育活動の改善等に生かす。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか ・社会経渉のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか

	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか ・教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか ・関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修などが行われているか
(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(7)学生の受け入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(8)財務	

(9) 法令等の遵守	・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	評価項目は設定しない

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

- ・自己採点に基づき下記の項目について意見聴取を行い、学校運営の改善を図る。

【教育理念・目標】

- ・学校自己評価に相違なし。
⇒入学後も学校理念や教育目標を学生や保護者へ訴求していきたい。

【学校運営】

- ・学校自己評価に相違なし。規定等は整備されているが、教員不足・長時間残業により教員の福祉向上が図れているか疑問である。
⇒学生や動物の福祉向上だけをうたう学校ではなく、教員への福祉向上が図れるように取り組んでいきたい。そのためにも教員の確保や施設の修繕・改修を進めていきたい。また、教員が自己啓発や自身の能力開発のための研修参加を積極的に促していきたい。

【教育活動】

- ・学校自己評価に相違なし。学生数増加により教員の確保が必要となるが校友会を含めてサポートしていきたい。
⇒学生数増加、教育の質を高めるためには教員の確保は絶対必要である。今後も卒業生や業界団体とは密に連絡を取り合い、業界経験者が専門学校で人材育成に取り組むことができる道を作っていく検討したい。

【学修成果】

- ・学校自己評価に相違なし。
⇒オンライン授業や動画配信授業の理解度の確認、実習の復習動画の作成など、オンライン授業化することで学生の理解度の向上と教員の業務負担軽減を促していきたい。

【学生支援】

- ・学校自己評価に相違なし。卒業生への支援も校友会ホームページなどで再就職先の告知ができている。
⇒卒業生支援についてはスキルアップセミナーなどがコロナ禍で開催できなかったため今後はコロナの様子をみつつ開催を検討したい。

【教育環境】

- ・学校自己評価に相違なし。学生数増加によりHR教室や実習室が手狭になつていると感じる。
⇒教員や学生からも改善希望が挙がっているため中長期的にはなるが校舎修繕・改修を検討している。

【学生的受入れ募集】

- ・学校自己評価に相違なし。コロナ禍で在籍者数を伸ばしていることは大変良い。
⇒入学相談スタッフが積極的に県内外問わず高校訪問や進路ガイダンスに参加できた。オンラインオープンキャンパスも継続している。教育効果はパンフレットやWebサイトへの掲載によって公開されている。

【財務】

- ・学校自己評価に相違なし。
⇒今後も健全な財務状況になるべく管理を徹底する。

【法令等の遵守】

- ・学校自己評価に相違なし。
⇒今後も法令の遵守に努め、新任教職員はコンプライアンス検定受験、全教職員へは研修への参加を必須とする。

【社会貢献・地域貢献】

- ・学校自己評価に相違なし。夜間動物病院との連携は新潟県内の飼い主に対して大きな貢献をしている。
⇒夜間動物病院との連携(学生の見学やインターンシップも含めて)を強化していきたい。また2022度はアクアリム学科教員と学生が運営をするWaN水族館を初開催し、地域の小中学生と保護者へアクアリウムの世界の学びを提供した。(説明・観察・体験)

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所 属	任期	種別
小野 智弘	うさぎとあなた オーナー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員

佐藤 大輝	wan on one 代表	令和5年4月1日～令和7年3月 31日(2年)	企業等委員
-------	---------------	----------------------------	-------

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) URL: https://www.wan-c.jp/wp-content/themes/wan2022/img/pdf/r2_schoolrelationship.pdf 公表時期: 令和4年10月3日 (別途、以下の資料を提出) * 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2 * 自己評価結果公開資料 * 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)																									
5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係																									
(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針 業界・団体との連携による実践的な職業教育を行う本校が、ペット・動物関連企業等との連携および協力の推進に資するため、学校関係者等に対し、学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供し、説明する等理解を得ることに努める。																									
(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの項目</th> <th>学校が設定する項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)学校の概要、目標及び計画</td> <td>・教育理念、教育方針、教育指針・育成する人材像・人間力育成のための指針・所在地、連絡先、校長名・学校の沿革</td> </tr> <tr> <td>(2)各学科等の教育</td> <td>・入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、定員、在学生数・学科概要・進級・卒業の要件・主な資格、検定の実績・学科別取得目標資格、検定</td> </tr> <tr> <td>(3)教職員</td> <td>・教員の専門性、担当科目</td> </tr> <tr> <td>(4)キャリア教育・実践的職業教育</td> <td>・就職サポートシステム、就職支援の取り組み状況・実践的な実習授業の状況・就職実績</td> </tr> <tr> <td>(5)様々な教育活動・教育環境</td> <td>・学校行事・施設設備・ボランティア活動実績・サークル活動</td> </tr> <tr> <td>(6)学生の生活支援</td> <td>・生活支援のための学生寮、アパート紹介制度・シングルライフサポート制度・スクールカウンセラー・通学定期、学割発行・学生総合保障制度、学生割引き特典等</td> </tr> <tr> <td>(7)学生納付金・修学支援</td> <td>・学生納付金額・就学のための経済的支援措置の内容</td> </tr> <tr> <td>(8)学校の財務</td> <td>・独立監査人の監査報告(資金収支書・消費収支書・貸借対照表)</td> </tr> <tr> <td>(9)学校評価</td> <td>・自己評価結果と改善策・学校関係者評価の結果</td> </tr> <tr> <td>(10)国際連携の状況</td> <td>・海外からの講師招聘の状況・海外研修</td> </tr> <tr> <td>(11)その他</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		ガイドラインの項目	学校が設定する項目	(1)学校の概要、目標及び計画	・教育理念、教育方針、教育指針・育成する人材像・人間力育成のための指針・所在地、連絡先、校長名・学校の沿革	(2)各学科等の教育	・入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、定員、在学生数・学科概要・進級・卒業の要件・主な資格、検定の実績・学科別取得目標資格、検定	(3)教職員	・教員の専門性、担当科目	(4)キャリア教育・実践的職業教育	・就職サポートシステム、就職支援の取り組み状況・実践的な実習授業の状況・就職実績	(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事・施設設備・ボランティア活動実績・サークル活動	(6)学生の生活支援	・生活支援のための学生寮、アパート紹介制度・シングルライフサポート制度・スクールカウンセラー・通学定期、学割発行・学生総合保障制度、学生割引き特典等	(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金額・就学のための経済的支援措置の内容	(8)学校の財務	・独立監査人の監査報告(資金収支書・消費収支書・貸借対照表)	(9)学校評価	・自己評価結果と改善策・学校関係者評価の結果	(10)国際連携の状況	・海外からの講師招聘の状況・海外研修	(11)その他	
ガイドラインの項目	学校が設定する項目																								
(1)学校の概要、目標及び計画	・教育理念、教育方針、教育指針・育成する人材像・人間力育成のための指針・所在地、連絡先、校長名・学校の沿革																								
(2)各学科等の教育	・入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、定員、在学生数・学科概要・進級・卒業の要件・主な資格、検定の実績・学科別取得目標資格、検定																								
(3)教職員	・教員の専門性、担当科目																								
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・就職サポートシステム、就職支援の取り組み状況・実践的な実習授業の状況・就職実績																								
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事・施設設備・ボランティア活動実績・サークル活動																								
(6)学生の生活支援	・生活支援のための学生寮、アパート紹介制度・シングルライフサポート制度・スクールカウンセラー・通学定期、学割発行・学生総合保障制度、学生割引き特典等																								
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金額・就学のための経済的支援措置の内容																								
(8)学校の財務	・独立監査人の監査報告(資金収支書・消費収支書・貸借対照表)																								
(9)学校評価	・自己評価結果と改善策・学校関係者評価の結果																								
(10)国際連携の状況	・海外からの講師招聘の状況・海外研修																								
(11)その他																									

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法 ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) URL: https://www.wan-c.jp/wp-content/themes/wan2022/img/pdf/basicinformation.pdf?170925 公表時期: 令和4年10月3日 (別途、以下の資料を提出) * 情報提供している資料	

事務担当責任者	フリガナ	クラタ ジュンコ	所属部署	教務部
	氏名	倉田 純子	役職名	部長
	所在地	〒 950-0911 新潟市中央区笹口2-13-4		
	TEL	025-240-8321	FAX	025-240-8931
	E-mail	kurata.junko@nsg.gr.jp		

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 水族館・ドルフィン学科)											企 業 等 との 連 携	
分類			授業科目名	授業科目概要				授業方法	場所	教員		
必修	選択必修	自由選択		配当年次・学期	授業時数	単位数	講義					
1	○		コミュニケーション実践Ⅰ	対面交流場面における「話す」行為において、相手の状況を正しく理解した上で、自分の意志を目的や場面に応じた適切な表現でわかりやすく示し、効果的に相手に伝えることを学ぶ。コミュニケーション検定初級合格を目指すために、対策授業を行い、合格点に達しない者は補講を行う。	1前	32	2	○	○	○		
2	○		コンピュータ実習	日本語文章入力をある程度の速さで、正確に行えるようにする。Wordの理解を深め、活用できる基本技能を身につける。	1通	64	2		○	○	○ ○	
3	○		ビジネスマナー	組織、お客様、取引先などと良好な人間関係を保つつつ、仕事の成果をあげるためにビジネスマナーを身につける。また、9月に受験をする社会人常識マナー検定に向けて、過去問題は宿題で行い、合格点に達しない学生は補講を行い、合格できる準備を整える。	1前	32	2	○		○	○	
4	○		就職実務Ⅰ	毎日の生活を豊かに有意義に過ごすためにも、自分らしい生きがいややりがいを持って働くためにも、働く意義をしっかりと理解した上で就職活動を進めていく。身だしなみセミナー、求職登録面接、就職研修、インターンシップを通して、翌年（翌々年）の就職活動を意識する。	1後	32	2	○		○	○	
5	○		水槽管理実習Ⅰ	水槽メンテナンスの手順を考え、自主的に水槽管理ができるようになる。学内外の水槽管理を行う。	1後	32	1		○	○	○	
6	○		観賞魚飼育概論	熱帯魚、金魚、淡水魚、海水魚、錦鯉などの観賞魚及び関連用品に関する販売及び管理に携わる専門家になるために必要な内容をテキストに沿って授業を行う。	1前	16	1	○		○	○	
7	○		魚病学	観賞魚における魚病の原因、症状、予防・治療に関する基礎知識を学ぶ。魚病の具体的な症例を理解し、観賞魚用医薬品の取り扱い方や使用の際の注意点を学ぶ。	1前	16	1	○		○	○	
8	○		ネイチャーアクアリウム理論	ネイチャーアクアリウムに対する理解を深め、制作から維持管理についての知識を習得する。	1通	48	3	○		○	○ ○	
9	○		マリンアクアリウム理論Ⅰ	ホームアクアリウムレベルでの海水魚飼育の基礎知識について学ぶ。主に、淡水魚飼育との相違点、海水魚飼育に必要な器具、器具の仕組み、使用上の注意点について紹介する。	1前	16	1	○		○	○	
10	○		海洋学	各講義ごとに「海洋の断面構造」や「水の性質」等のテーマを決定し、海洋に関するより深い理解を構築する。	1後	16	1	○		○	○	
11	○		魚類概論Ⅰ	魚類は呼吸・血液・消化・内分泌・感覚など独自の生理作用を営むものが多い。初学者の理解を深めるため生理学の基本項目から魚類の生理特異性などについて学ぶ。	1前	32	2	○		○	○	

12	○		水生動植物実験 I	河川、湖沼、地下水、海洋などの水域に生息する水中あるいは水界に密接に依存して生活する動物について学ぶ。	1 通	64	2			○	○		○
13	○		スイムトレーニング I	近隣のプール施設を利用し、泳力レベルに応じてチーム分けを行い学生それぞれがその日の課題に取り組む。	1 前	32	1			○	○	○	○
14	○		トレーナートレーニング I	行動の原理の授業内容をベースにしながら魚のトレーニングを通して水族館等で飼育されている海獣類のトレーニングの実践基礎を学ぶ。	1 後	32	1			○	○	○	
15	○		ネイチャーアクアリウム実践	海洋生物・ドルフィンコースのために、ネイチャーアクアリウムの制作から管理までを実習する。	1 前	48	1			○	○		○
16	○		海洋生物概論 I	海洋生物の行動や生態、水族の環境保全、海の生物資源の活用等を学ぶ。	1 後	32	2	○		○		○	
17	○		海洋保全論	海洋汚染の大半が故意や取扱不注意等による人為的な要因により発生していることを知り、海洋汚染を防止し、海洋環境を保全する基本原理を学ぶ。	1 後	16	1	○		○		○	
18	○		行動の原理	後期に始まるトレーナートレーニング I の理論分野。主にオペラント条件付けを扱い水族館等で飼育されている海獣類のトレーニングにおける背景（理論）を学ぶ。	1 前	32	2	○		○	○		
19	○		海洋哺乳類概論	海洋哺乳類の種の特性、ストラッディングや混獲、年齢・性別査定、外部計測法等について基本事項を学ぶ。	1 後	16	1	○		○		○	
20	○		水族飼育実習 I	ネイチャーアクアリウムを通して水槽メンテナンスの基礎を学ぶ。海水水槽の初期管理を学ぶ。	1 通	64	2			○	○	○	
21	○		水族飼育理論 I	水族館設備の名称や仕組みについて、理解する。	1 通	48	3	○		○	○	○	
22	○		潜水土対策	過去問研究を主眼に置きながら 4 つの単元（潜水業務/送気、潜降、浮上/高気圧障害/関係法令）に効率的に取り組む。	1 前	96	6	○		○	○		
23	○		海獣類飼育理論 I	給餌、病気、繁殖、輸送等、生物飼育に関わる知識や見識を得る。	1 後	32	2	○		○	○		
24	○		水生生物研究 I	新潟市の海岸や鳥屋野潟などフィールドで、四季ごとの変わる環境や生物層の変化を、生物採集や観察を通して理解する。但し、悪天候等の場合はマリンピア日本海の管内生物や種の検索を実施して学習する。	1 後	64	2		○	○	○	○	
25	○		コミュニケーション実践 II	1年次に勉強したビジネスマナーを復習し、社会人になる準備を始める。	2 前	32	1	○		○	○		

26	○		プレゼンテーション	基本的に聴衆となり発表者へアンケートによりフィードバックを行う。自分がプレゼン時には準備を周到に行い、配布資料やプレゼン用ファイルを作成・使用する。	2 前	32	1	○			○	○			
27	○		就職実務Ⅱ	毎日の生活を豊かに有意義に過ごすためにも、自分らしい生きがいややりがいを持って働くためにも、働く意義をしっかり理解した上で就職活動を進めていく。	2 前	32	1	○			○	○			
28	○		水槽管理実習Ⅱ	水槽メンテナンスの手順を考え、自主的に水槽管理ができるようになる。学内外の水槽管理を行う。	2 通	64	2				○	○	○		
29	○		遺伝・育種学	生物の遺伝についての基礎知識を学ぶ。生物の育種の基本を理解する。	2 後	16	1	○			○		○	○	
30	○		観賞魚飼育・管理士対策	観賞魚飼育管理士ベーシックレベルの合格を目指し、対策学習を行う。	2 前	16	1	○			○	○			
31	○		養殖・繁殖学	水生生物の繁殖の基礎知識を学ぶ。観賞魚を含む身近な生物の増養殖についての基礎を学ぶ。	2 後	16	1	○			○		○	○	
32	○		環境・生態保護論	自然環境、生態系をテーマに、生態系の仕組み、現状、保護について学ぶ 対面授業で実施。	2 後	32	2	○			○		○		
33	○		魚類概論Ⅱ	呼吸、血液、温度、消化と吸收、排出・浸透調節、内分泌、生殖、魚の毒、鱗、神経系、感覚について、図や写真、表を用いながら視覚的に学ぶ。	2 後	32	2	○			○		○		
34	○		水生動植物実験Ⅱ	魚類飼育における水質管理・自作ろ過層の製作・自作水槽の製作を行う。また、プランクトン数の計数方法・魚類やイルカの血液の検査方法を習得する。対面授業で実施。	2 通	48	2				○	○		○	
35	○		マリンアクアリウム理論Ⅱ	クマノミの繁殖、クラゲの飼育、サンゴの飼育など、マリンアクアリウムにおける応用的な飼育に関する知識を習得する。	2 後	32	2	○			○	○			
36	○		スイムトレーニングⅡ	近隣のプール施設を利用し、泳力レベルに応じてチーム分けを行い学生それぞれがその日の課題に取り組む。	2 前	32	1				○	○	○	○	○
37	○		トレーナートレーニングⅡ	行動の原理の授業内容をベースにしながら魚のトレーニングを通して水族館等で飼育されている海獣類のトレーニングの実践の基礎を学ぶ。	2 通	64	2				○	○	○		

38	○		海獣類飼育理論 II	給餌、病気、繁殖、輸送等、生物飼育に関わる知識や見識を得る。	2 通	32	2	○			○	○	
39	○		海洋生物概論 II	海洋生物を取り巻く環境及びその分類や無脊椎動物の基本を学ぶ。	2 後	64	4	○			○		○
40	○		水族飼育実習 II	1. 海水魚飼育の基礎知識・水族飼育の活用法を習得する。 2. 水槽管理のスピードを上げる 3. 仕上がりの質を上げる	2 通	128	4			○	○	○	
41	○		水族飼育理論 II	白点病について学び判別と対処方法を身に付ける。海水魚及び海水無脊椎動物の繁殖方法を身に付ける。	2 前	32	2	○			○		○
42	○		捕鯨問題	捕鯨は日本の食料確保になんら影響がなく、経済的理由もない。そのため世界からは激しく非難されている。にもかかわらず日本が捕鯨を継続する背景について学ぶ。	2 後	16	1	○			○		○
43	○		海洋法・漁業法	領海・排他的経済水域などの設定と利用、生物・鉱物資源の保存・開発、環境保護などについて規定した海洋法、及び漁場の総合的な利用による漁業の発展を目的とする漁業法について学ぶ。	2 後	16	1	○			○		○
44	○		水生生物研究 II	新潟市の海岸や鳥屋野潟などフィールドで、四季ごとの変わる環境や生物層の変化を、生物採集や観察を通して理解する。但し、悪天候等の場合はマリンピア日本海の館内生物や種の検索を実施して学習する。	2 前	64	2		○		○		○
45	○		異文化研究	異国の文化（言語、気候、風習、歴史など）を調べ、考察したことをプレゼンテーションする。	2 後	16	1	○			○	○	
46	○		海水魚の病気	白点病について学び判別と対処方法を身に付ける。	2 前	16	1	○			○	○	

46科目 1,744単位時間(81単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等
年間総授業時限数の90%以上を出席科目の評価が全て「C」以上学校指定の検定を2つ以上合格授業料、その他の納入金を完納、または、所定の手続きを終える	1学年の学期区分 2期 1学期の授業期間 16週